

平成30年度 社会福祉法人福浜会事業報告

・ 法人	・・・	P 1
・ はまぼう	・・・	P 3
・ あにまあと	・・・	P14
・ そるとぽっと	・・・	P21
・ 松ぼっくり	・・・	P30
・ 潮の香	・・・	P40
・ 結	・・・	P47
・ 地域療育支援センター事業	・・・	P49
・ 地域生活支援	・・・	P50
・ 汐風	・・・	P52
・ 磐田市障害者相談支援センター及び 磐田市障害者虐待防止センター	・・・	P55

社会福祉法人福浜会

平成30年度社会福祉法人福浜会事業報告

平成30年度報酬改定に伴い発表された基本的な考え方とその対応について、当法人としては下記のことについて報告をしたい。

(1) 医療的ケア児への対応等

これまではまぼう内で活動してきた重症心身障害児(者)の方たちの新たな活動場所として、あにまあとが創設された。医療的ケアが必要な障害児のための看護職員も、手厚い配置ができた。

(2) 計画相談支援・障害児相談支援における質の高い事業者の評価等

基本相談、計画作成等については、直接利用されているサービス事業所に出向き、ご本人と話をするなど丁寧な対応を心掛け、必要に応じて関係者によるサービス担当者会議を開催した。

(3) 障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域生活支援として、重度障害者への支援のためのグループホーム創設、一人暮らしの障害者の支援のための「自立生活援助」等

現在グループホーム創設については、法人内から希望されている方がいるが、世話人等の募集をかけても応募者が殆どなく、配置が難しい中、新たな設置は困難な状況がある。しかし一方では、磐田市内に株式会社等によるグループホームが設置され、対応している。当法人として、創設が可能となる方法を工夫していく必要がある。

また、以前当法人のグループホームを利用されていた方が、他県から地元に戻り、現在その生活援助及び就労支援を行っている。サービスの対象にはならないが、障がいのある方の地域生活支援、地域貢献という視点から、対応しているケース事例がある。

さて法人内については、前述したあにまあとの新築移転が大きな動きであった。重症心身障害という重い障がいのある人たちを受け入れて23年を経過し、やっと平成30年5月に、生活介護（定員20名）と障害児通所支援の多機能型（放課後等デイサービス・児童発達支援 定員5名）の複合施設として出発した。詳細については、あにまあと活動報告にあるが、これまでできなかった幾つかのサービスを実施することができ、地域から望まれる施設としてその役割を果たしていくことを目標に掲げて、今後の活動に期待したい。

また昨年度から受託した磐田市障害者相談支援センター・障害者虐待防止センターも1年が経過した。当法人が考えている委託相談の在り方、活動について模索してきた1年であったが、磐田市政府がセンターに求める役割についてアドバイスもいただきながら、一歩ずつ進めることができたのではないかと振り返っている。来年度から南部障害者相談支援センターが開設され、新たな連携の下でのセンターの役割が求められることになる。障害者の権利並びに当事者の意思及び選好を尊重し、ご本人が自己決定、意思決定ができるように支援し、その人らしい自立した日常生活や社会生活が送れるよう配慮していく」ことを基本に、当事者の思いを受け止め、どうすれば実現できるのかを一緒に考えていくとともに、地域全体の障害福祉の一步を築くための役割も果たしていくことになる。支援を必要としている人たちに、切れ目、隙間のない支援が可能となるよう、尽力していきたい。

そのほか防災対策について、今年度業者に直接話を伺いながら、「安否確認コール」の採用について検討した。この案件については、来年度、早期に実現できるよう重要課題であると考えている。

平成 30 年度理事会

開催日	出席者数 ／ 理事総数	議 題
6/6	6 / 6 監事 (2 / 2)	1 平成29年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 2 あにまあと建物の基本財産追加による社会福祉法人福浜会定款変更について 3 はまぼう定員変更申請及び営業時間変更に伴う運営規程の変更について 4 社会福祉法人福浜会給与規程の改定について 5 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について 6 旧あにまあと第一次補正予算案 7 社会福祉法人福浜会定時評議員会の開催について 報告事項 職務執行状況報告
12/28	6 / 6 監事 (2 / 2)	1 あにまあと施設整備会計決算報告について 2 平成30年度社会福祉法人福浜会本部及び施設等第1次補正予算案について 報告事項 監事監査による監査結果の内容及び指示・指摘事項の改善状況報告 平成30年度法人指導監査及びあにまあと・そるとぼつと実地指導について
3/25	6 / 6 監事 (2 / 2)	1 平成30年度法人会計及び施設・事業会計補正予算案について 2 平成31年度法人及び各事業所事業計画について 3 平成31年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 4 社会福祉法人福浜会就業規則改定について 5 社会福祉法人福浜会定時評議員会の開催について

平成 30 年度評議員会

開催日	出席者数／ 評議員総数	議 題
6/26	7 / 7 監事 (2 / 2)	1 平成29年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 2 あにまあと建物の基本財産追加による社会福祉法人福浜会定款変更について 報告事項 職務執行状況報告
H30 3/25	7 / 7 監事 (2 / 2)	1 平成30年度法人会計及び施設・事業会計補正予算案について 2 平成31年度法人及び各事業所事業計画について 3 平成31年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 4 社会福祉法人福浜会就業規則改定について

平成30年度はまぼう活動報告

1. 在籍者の状況

はまぼう 平成30年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況（4月は定員35名）

区分		月												合計
		30年	5	6	7	8	9	10	11	12	31年	1	2	
入所		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12
月末 在籍	男	30	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	
	女	15	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
	計	45	35	35	35	35	35	35	35	35	35	34	34	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分		月												合計
		30年	5	6	7	8	9	10	11	12	31年	1	2	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

2. その他の利用状況

区分		月												合計
		30年	5	6	7	8	9	10	11	12	31年	1	2	
特実 支習 等生	人員	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6
	延日数	0	0	15	0	0	0	12	0	0	0	0	0	27
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	0	0	0	4	7	0	0	0	0	11
	延日数	0	0	0	0	0	0	4	13	0	0	0	0	17
見 学 者	件数	1	1	0	3	1	1	0	1	1	2	0	0	11
	人員	2	2	0	13	3	2	0	2	1	2	0	0	27
ポテ ライ ンア	延人数	7	8	15	20	13	11	9	13	14	8	9	8	226
	特記				地域交流会 91									

3. 活動の状況

活動全般について

法人内施設間の移動ではまぼうに通所することになった利用者さんがいましたが、1年余りの間に、家族との連絡を密接に行いながら、気持ちの安定、変化等への気配り(気付き)を心掛け、現在、以前ほどの気持ちの不安定さもなくなり通所できている。そのようなケース事例の一方、障がい特性から来るのかそれとも他の要因があるのか、見定めることが難しく、その対応にいまだ対応ができず、苦慮しているケースもあります。

はまぼうでは、いろいろなことを自分で決められるようにと、朝のミーティングでその日の活動を自分で選ぶ仕組みとなっています。現在作業活動においては、一部の利用者さんを除いてほとんどの方が、参加する作業内容が定着しています。今年度は、新しい2名の方が学校卒業後に通所されましたが、できるだけご本人やご家族の意向を聞きながら、その対応を模索し心掛けました。現在安定した気持ちで活動に参加できています。利用者さんを理解するため、一人ひとりと向き合い、仲間作りも意識しながら、作業やレクリエーション活動に参加できるように実施してきました。

活動内容は、下記の報告のとおりですが、全員での活動(流しそうめん、季節行事)を試みたり、通常のグループメンバーとは異なる複数のグループによる土曜レクリエーションやサークル活動を行ったり、利用者さんの意見を取り入れながら、充実した活動が実施できたのではないかと思います。

そのほか、施設でのグループ活動や個別体験、料理作り、スポーツ体験等も実施しましたが、基本としているのは、利用者さんの意見や希望に沿って取組むとともに、個別体験などは、ご本人だけでなくご家族とも相談し、その希望に沿った内容を個別支援計画に記載し、実施するようにしました。また本人会である「はまちゃん会」も、クリスマス会や風船バレー大会などの行事を主体的に企画立案することができました。

健康面では、年齢とともに体調の変化が見えてきています。てんかん発作や側弯等の身体的な疾患、2名の方のストマ装着への対応など、健康面でのケア内容の変化への配慮が必要になってきています。家庭との緊密な連絡はもちろんですが、利用者さんの主治医や法人の嘱託医等との情報交換の重要性が増しています。

4. グループ活動報告

主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぶりん工房・オズグループと2つのグループに分かれて行った。外部作業以外は所属グループにとられることなく、利用者さんがやってみたい作業を選び行った。

(1)ぼぶりん工房

①受注作業

〈ブリヂストン(株)〉

「LD下パック清掃作業」は、工程を2～3段階に分け、個々の利用者さんに合った工程で進めていった。「LD塗装下キャップ清掃作業」は、部品が小さく細かい作業であるが、個々の利用者さんに合わせて補助具を使用したり、工程を分けるなどして、少しずつ無理のない範囲で行ってきた。

〈大洋工業〉

シートカバー袋詰めの前負作業を行う。工程ごとに分かりやすいように工夫をし、担当する利用者さんそれぞれが意欲的に取り組む様子がみられた。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの布を織ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせる製品を考え、携帯入れや巾着・ペットボトルケースなどの製品に仕上げている。トートバック・ポーチなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わい、製作意欲の向上にもつながった。

④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げることができた。

⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。数年間継続してやっていることで、短期間で仕上げる事が出来ている。利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

(2)オズグループ

①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日に、福田地区を中心にご協力くださる店舗や家庭を定期的に缶回収に廻り、収集したアルミ缶の缶つぶしを行った。毎週金曜日や缶が溜まった時に、業者へ缶運搬を実施。納品の際には、作業収入増につながるため、より買い取り金額の高い業者へ缶の運搬を行った。活動は、プルタブ取りと足踏み式及び卓上式缶つぶし機を使う二種類の作業工程に分けた。缶つぶしは、段階的に工程を分け、利用者さん一人一人に合った工程を担当し、多くの利用者さん同士で協力し合いながら、缶つぶしを行うことが出来た。

②リサイクル活動

月に一回、施設に溜まったダンボールやペットボトル、雑誌等をクリーンセンターに運び、リサイクル活動を行った。準備段階から利用者さんと一緒に行い、一体となって活動を行うことが出来た。

毎月申請に行き、市からの助成金(古紙等資源集団回収事業奨励金)を受けた。

③園芸・畑

1月～3月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。今年度は、苗を購入して花が咲いている状態で納品できるように育てた。県庁への納品・回収は、今年度も利用者さんとお掛け、通常とは違う活動で楽しみながらの納品であった。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつまいも・玉葱を作り、収穫は利用者さんが中心となって行うようにした。採れた野菜等は、バザー等で販売を行った。

(4)外部作業

①コーケン工業

磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業(部品にゴムリング・銅リングをはめる作業)を行っている。仕事にも慣れ、作業内容もほぼ固定されているので、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、一人一人が責任を持ちながら作業に取り組むことができている。

②於保老健施設・さくらの苑

〈於保老健施設〉

毎週火曜日にベットメイキングを行った。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシーツ交換が出来た。

〈さくらの苑〉

毎週水曜日にベットメイキングを行った。作業にも慣れ、スムーズにシーツ交換できるようになった。困る事や分からないことには、しっかりと聞きに行くことが出来ていた。

(5)販売

出来上がった製品・野菜等は、地域のバザー、アプレゲール、お茶の山大園で販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展示会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、さをり織りの巾着・ペットボトルケースは好評だった。野菜等も地域のバザー等で好評であった。

その他の活動について

(1)グループ活動

〈朝・帰りのミーティング〉

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

〈グループ活動〉

ぽぷりん工房は5月に可美公園・スズキ歴史館へ、オズグループは10月に高丘公園・エアパークへ行く、どちらもお弁当を食べながらのんびりと過ごし、園内を見学して楽しむことが出来た。2月・3月には、オズグループはあらさわふる里公園へ、ぽぷりん工房は3グループに分かれてレストランで昼食を食べ、資生堂アートハウスや大塚製薬・エアパークを見学し、少人数で落ち着いて過ごすことが出来た。いずれもいつもと違う活動に満足できた様子だった。

宿泊体験は4グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

(2)個別活動

スポーツ体験や料理作りなどの生活体験を含めた活動を少人数で個々の希望に合わせて、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。(希望者のみ実施 実施状況 表1)

(3)個別体験

事前にアンケートをとり、個別面談時にご本人やご家族の希望を聞きながら、体験したいことや外出先を決めて実施した。それぞれに楽しめた内容となった。(希望者のみ実施・実費徴収 実施状況 表2)

表1. 個別活動

実施日	内 容 (行き先・メニュー等)	参加人数
5月17日(木)	料理作り (ちらし寿司・すまし汁・フルーツゼリー)	利 3名 職 1名
8月10日(金)	プール (竜洋B&G)	利 2名 職 2名
8月20日(月)	プール (竜洋B&G)	利 3名 職 2名
10月11日(木)	ウォーキング (遠州灘海浜公園)	利 2名 職 2名
10月22日(月)	ボウリング (袋井グラウンドボウル)	利 3名 職 2名
2月 8日(金)	料理作り (焼きそば・お好み焼き・クレープ)	利 4名 職 1名
2月14日(木)	料理作り (タコライス・コーンスープ・ティラミス)	利 4名 職 2名
3月 5日(金)	お菓子作り (パンケーキ)	利 2名 職 1名
3月 6日(水)	ヤマハコミュニケーションプラザ	利 3名 職 2名
3月13日(水)	料理作り (ラーメン・チャーハン・餃子)	利 2名 職 1名
3月19日(火)	ピクニック (うさぎ山公園)	利 3名 職 2名

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加人数
5月18日(金)	ウォーキング (蔵王山)	利 2名 職 2名
10月19日(金)	名古屋港水族館	利 3名 職 2名
11月 2日(金)	のんほいパーク (豊橋市)	利 3名 職 2名
11月 6日(火)	カラオケ (まねきねこ : 磐田市)	利 2名 職 2名
11月22日(木)	エスパルスドリームプラザ (静岡市)	利 2名 職 2名
11月26日(月)	浜名湖パルパル	利 3名 職 2名
12月 3日(月)	富士川サービスエリア	利 2名 職 2名
12月13日(木)	ランチバイキング&買い物 (浜松クラウンパレス)	利 4名 職 2名
1月24日(木)	ランチ&買い物 (浜松市)	利 1名 職 1名
2月15日(金)	御前崎市民プール「ぶるる」&ランチ	利 1名 職 1名
2月18日(月)	食楽工房 (浜松市)	利 2名 職 2名
2月27日(水)	ランチ&カラオケ (さわやか&joy joy : 磐田市)	利 3名 職 2名
3月 4日(月)	アクティ森	利 2名 職 2名

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間8回行った。

身体を動かしたり、文化的な活動など、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内容
4 / 28	ミニウォーキング
5 / 12	母の日カード作り
8 / 11	流しそうめん
8 / 18	地域交流会の飾り作り
9 / 8	カラオケ
9 / 22	ハロウィン飾り作り
11 / 7	ミニミニ運動会
3 / 2	お菓子作り

6. サークル活動

第3火曜日の午後の活動時間を利用してサークル活動を行った。野外活動を中心とした「あおぞらサークル」、室内遊びを中心とした「あそびサークル」、文化的・芸術的な活動に触れ合う「ピカソサークル」の3サークルから希望をとり、1年間それぞれのサークルで企画・実施した。楽しんで参加している様子が伺えた。

実施内容

	あおぞら サークル	あそび サークルA	ピカソ サークル
5 / 15	計画（里山公園）	計画	計画
6 / 19	里山公園	カラオケ	消しゴムはんこづくり
7 / 24	エコパ	水あそび	紙粘土細工づくり
8 / 21	ゆめりあ	かき氷屋さん	ハロウィン創作
10 / 16	エコパ	ボール遊び	貼り絵づくり
11 / 20	兎山公園	クレープ作り	クリスマス飾りづくり
12 / 18	ゆめりあ	凧作り	福笑いを作ろう
1 / 22	ゆめりあ	凧上げ	福笑いで遊ぼう
2 / 19	エコパ	風船バレー	ひな飾りづくり
3 / 19	ゆめりあ	ゲーム&反省会	反省会

7. 行事・バザー報告

はまぼう 平成30年度年間行事・バザー表

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(2)							
5		環境美化委員会	○		ヤマハジャンボリー(20)		○	○
6	大掃除(9)				磐田北高校文化祭()		○	呼びかけ
7	開所記念日(1) バーベキュー会(14)		○	○				
8								
9	地域交流会バザー値付け(7) 地域交流会前日準備(14) 地域交流会(15)	実行委員会	○					
			○					
			○					
10	地域清掃	環境美化委員会						
11					ぬくまるマーケット(9) ふくでふれあいまつり(11) 光る子まつり(17)		○ ○	○ ○
12	大掃除(1) ふれあい作品展(5～13) ヤマハ労連観劇(16)	環境美化委員会	○ ○ ○					
1	新年会(6) 個別面談	各G						
2	個別面談	各G						
3	年度納めの会(14) 個別面談	各G						
《備考》 ・ グループ活動…外出・外食・料理作り・スポーツ等実施。 ・ 個別体験…個人の希望に沿って時期・場所等を設定。 ・ 土曜レク(開所日に実施)。 ・ サークル活動 毎月第3火曜日 ・ 個別面談は…1～3月に実施。					《毎日販売》 ・ アブレ・ゲール ・ お茶の山大園 《その他販売》 ・ はまぼう販売			

8. ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを4月・3月は、はまぼうで、5月～2月までは、あにまあとで開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

9. 環境美化委員会

- (1) 大掃除前後等、必要に応じて委員会を開き、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをした。
毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- (2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。
家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。
今年度は、夏季・冬季大掃除を土曜日にする事で、多くの保護者さんに協力をしてもらい、実施することが出来た。
- (3) ゴミの分別については、適宜注意喚起することで意識して行うことができた。
大掃除前にクリーンボックスを設置することで、大きなゴミを処理することができた。

10. 安全委員会

- (1)利用者の方の安全確保
 - ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
 - ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。
- (2)防災
 - ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
 - ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
 - ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。
- (3)施設設備（環境）の保全管理
 - ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。
- (4)安全運転管理
 - ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
- (5)緊急事態への対応
 - ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
 - ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

11. 生活・保健衛生委員会

- (1)健康診断及び記録について
健康診断は春と秋に、レントゲン撮影は4月に実施した。検尿は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員が毎月、利用者さんは半年に1回実施した。
血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。
健康診断の結果については、嘱託医に確認して頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）
記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。
服薬はグループ単位で把握し、服薬ミスが無いように管理した。処方箋は昼食以外の物も提出して頂き、万が一の時に把握できるようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。結果は、体重表（カード）に記入し、家庭に確認して頂いた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

年に4回法人全体で保健だよりを作成・発行し、それぞれの季節に必要なこと呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応している。徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まっているが、今後も声掛けが必要だった。トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要だった。

寝具については布団、毛布の天日干しを隔月で実施した。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前とうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

感染症予防の為、12月～3月には日に数回次亜塩素酸ナトリウム製剤を空中散布し、施設内4ヶ所にジェルタイプの手指消毒剤を設置した。また、ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬（次亜塩素酸泡タイプ）の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員会議にて伝え、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ・使い捨てマスク・使い捨て手袋等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきていることが多く、貸し出すことは少なかったが、下着を購入するなどして万が一の時に備えた。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、必要な利用者さんに対しては全面介助や仕上げ磨きを行った。うがいも上手に出来るように促したが、うがいが難しい利用者さんに対しては、お茶や水を飲むことで口腔内の清潔に努めた。

(10)歯科検診について

訪問歯科による歯科検診を全利用者さん対象に実施した。

12. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。また、虐待防止チェックリストは、10月と3月（半期に一度）に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。

会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていくことを確認した。

13. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

土曜日の通所日を利用して10回開催し、意見交換会など利用者さん主体で意見や要望を出し合った。恒例となったはまちゃん会主催のクリスマス会スミーズも企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。また、今年度は球技大会を皆で楽しみたいとの提案が出され、風船バレー大会を企画・実施した。

第1回 4/21(土)	年間計画	第6回 12/22(土)	クリスマス会
第2回 6/ 2(土)	意見交換会	第7回 1/12(土)	クリスマス会の反省
第3回 8/ 4(土)	クリスマス会計画①	第8回 1/19(土)	球技大会計画
第4回 8/29(土)	クリスマス会計画②	第9回 2/ 9(土)	風船バレー大会（球技大会）
第5回 12/ 1(土)	クリスマス会・ハンドベル練習	第10回 3/23(土)	風船バレー大会の反省 今年度の反省

14. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て研修会を実施した。

平成30年度は、法人全体研修を5回実施した。地域生活支援との兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかったが、第5回合同研修会については土曜開所日の就業時間後に行ったため、多くの職員が出席できた。（内容については下記参照。）今後も日程、内容等の工夫をし、定期的な開催を通して職員の意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
6/27	メンタルヘルスについて 理事長の話 (合同研修会)	人権擁護・虐待防止 委員会 研修担当
10/10	ノロウイルス、インフルエンザ、はしかの予防について 理事長の話 (合同研修会)	生活保健委員会 研修担当
12/5	安否確認名簿について、福祉避難所について 理事長の話 (合同研修会)	安全委員会 研修担当
2/6	安全運転について 理事長の話 (合同研修会)	安全委員会 研修担当
3/24	自己評価集計結果に基づくグループワーク 理事長の話 (合同研修会)	研修担当

15. 相談・福田チーム検討会・地域包括ケア会議

施設等での外来相談については、サービス管理責任者、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談、学齢児の長期休暇時や放課後の支援の相談、進路相談、在宅児（者）への支援等。法人内のサービスに直結するものでないケースは、地域療育支援センター事業として実施しているケースもある。

就学前の重症心身障害児への支援は、家族支援も兼ねて家庭訪問をするなどの対応をしている。また、在宅の3障害を対象とした相談については、計画相談結が対応している。

対外的には、福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)や地域包括ケア会議、磐田市相談連絡会に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。

16. 中遠地域自立支援協議会及び中東遠圏域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。この参加者については、今年度も法人全体で担当職員を決めて出席。

当法人では、「相談支援連絡会」「こども部会」「就労部会」「地域生活支援部会」「重心在宅支援部会」「防災部会」の各専門部会、そして地域生活支援部会の中の「グループホーム」「ショートステイ」「自閉症等在宅支援」の課題別検討会に参加。

この内、「相談支援連絡会」「重心在宅支援部会」「防災部会」「地域生活支援部会」とその中の課題検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援部会」については、今年度も福浜会が担当した。

17. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議中東遠圏域自立支援協議会重心部会としての活動が主となり、中遠地域自立支援協議会重心部会としての活動は今年も開催がなかった。圏域では支援者同士のつながりを深める「支援者連絡会」を年に2回開催。はまぼう・あにまあと事務局として参加。今年度は、「わくわく」(ボウリング・食事会)と「検討会(研修)」の準備委員会及びコア会議にも事務局として参加し、当日も関係職員が出席した。2月には、静岡県が主催する医療を中心とした多職種連携研修にも協力・参加した。

その他関係機関との連携や県主催の会議、研修については下記のとおり実施、参加した。

① 特別支援学校等の教育現場の見学、手をつなぐ育成会や肢体不自由児者父母の会等の家族や本人が参加する団体の総会及び活動への参加。

② 重症心身障害のある人の在宅支援に関する会議及び研修に参加

静岡県主催： 「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議及び作業部会」

「重心看護従事者・介護従事者養成研修」

「重心ケアマネジメント従事者養成研修」

ゆうあいのさと「県西部子どもの在宅支援ネットワーク協議会」

平成30年度あにまあと活動報告

1. 在籍者の状況

あにまあと 契約者数

月 区分	30年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	31年 1	2	3	
生活介護	5	15	15	15	15	14	14	14	13	13	13	13	
児童発達	0	0	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	
放デイ	16	16	16	16	16	16	16	16	17	18	19	19	

2. その他の利用状況

月 区分	30年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	31年 1	2	3	合 計
特実 支習 等生	人 員	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4
	延日数	0	0	6	0	0	4	0	0	0	0	0	10
実研 習修 ・生	人 員	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	延日数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
見 学 者	件 数	0	1	1	2	1	1	0	0	1	1	3	12
	人 員	0	3	1	5	18	15	0	0	1	1	3	48
ポテ ライ ンア	延人数	0	1	6	16	13	5	12	13	16	11	12	117
	特 記												

3. 活動の状況

施設全体について

あにまあとは、5月に新築移転して、開所式を迎えた。当初の契約者は、生活介護15名・放課後等デイサービス16名でスタートしたが、利用者さんのご逝去が続き、契約者数が減ってしまった。児童部門についても、新規に児童発達支援の契約があったが、年度途中での利用者のご逝去に伴い、1名の契約にとどまってしまった。放課後等デイサービスの利用者については、年度末にかけて、数名の新規契約があり、契約者数が20名近くになってきている。

利用率についても、生活介護の利用は1日8人程度、放課後等デイサービスについては1日4名程度の利用率になっている。

日中活動としては、今まで行っていた『クッキー作り』『紙工芸』『ふれあい体操』『リフレクソロジー』を中心に活動プログラムを提供し、秋以降には入浴支援なども取り入れて、利用者さんの生活が快適になる取り組みを実施してきた。

新しい活動としては、『エアートランポリン』『オルゴールセラピー』『ハンドマッサージ』なども取り入れ、利用者さんのご希望に合わせて選択し、1週間の活動計画を行っています。

行事としては、『納涼会』『全体外出』『クリスマス会』『新年会』など季節の行事も企画し、利用者の皆さんが楽しめる活動の提供を行いました。

今年度は引越して間もないこともあり、宿泊体験は実施いたしませんでしたが、次年度以降は積極的に宿泊体験を実施していきたいと考えています。

4. 生活介護活動報告

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売を中心に行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来るようになった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実に行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

②紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を販売した。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さんが一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらった事が出来た。

③ふれあい体操

毎週月・木曜日、スポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。月1回(第3月曜日)理学療法士の方にも参加していただき、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

④リフレクソロジー

毎週木曜日、1回に3人(一人約30分)リフレクソロジストによる足裏マッサージ(施術前には足浴を実施して足を温めておく)を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑤入浴支援

特殊浴槽にて1日3~4人の入浴を実施した。生活介護に通っている利用者さんのご希望を伺い、週2回程度入浴ができるように行っています。いろいろな香りの入浴剤なども使い、心地良い時間を過ごしていただくとともに、入浴時に全身の健康観察も行っています。

5. その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらった。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたる疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

③足浴

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながらか楽しむことが出来た。

⑤ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会に、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

⑥外出・納涼会

納涼会は昨年度も行ってた恒例行事で、新たな場所では初めてとなった。夕食のカレー作りやスライドショーを行いました。

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員
6月 1日（金）	しおさい童洋	12名	14名
8月10日（金）	納涼会	10名	12名

⑦個別外出

実施日	内 容（行き先）	参加利用者	職員・ボラ
11月 2日（金）	マークイズ静岡（静岡市）	利 2名	職 2名
11月 7日（水）	ヤマハ企業ミュージアム（浜松市）	利 2名	職 2名
11月26日（月）	イオンモール市野（浜松市）	利 2名	職 2名
3月 5日（火）	杏林堂（浜松市）	利 1名	職 1名

⑧施設内行事

日 付	内 容
4/25	竣工式
5/1	開所記念の会
10/11	ヤマハ労連チャリティーキャラバン

11/16	ヤマハ労連チャリティーコンサート
12/20	クリスマス会
1/8	成人を祝う会
2/26	オルゴールセラピー
3/14	年度末お楽しみ会

6. 土曜日レクリエーション（のんびりし隊）

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を行った。

身体を動かしたり、創作的な活動など、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内容	日付	内容
4/21	今後の計画	9/22	反省と次月の予定決め
5/12	次月の予定決め	9/29	ボウリング
6/2	DVD鑑賞	11/17	光る子祭り参加
7/14	DVD鑑賞	12/22	デザート作り
8/4	反省と次月予定決め	1/12	スヌーズレン
8/11	スヌーズレン	1/19	散歩・足浴
8/18	フルーチェ作り	2/9	楽器遊び
9/8	DVD鑑賞	3/2	ボッチャ

7. 障害児通所支援活動報告

(1) コミュニケーション支援

① 音楽遊び

こども達が好む音楽（アニメソング、童謡等）を中心に、音楽鑑賞を行った。リズムに合わせて、手拍子をしたり、身体を揺らしたりする姿が見られた。今後は、興味の幅をひろげられるように、様々な音楽を取り入れていく。

② 感覚遊び

積み木や形合わせの玩具を使い、微細運動を行った。継続して行うことで、バランス・形をスムーズに認識できるようになってきた。

バランスボールを使つての、身体全体を動かす遊びを行った。不安定な体勢になることに慣れず、苦手なこどももいた。興味の示し具合を見ながら、今後も誘い掛けを継続していく。

③ 読本

色彩豊かな本、ストーリーの分かり易い本を中心に、読み聞かせを行った。

外出が可能な時には、市立図書館に出掛けて、普段なかなか読むことのできない本に触れる機会を設けることができた。

(2) 社会化

① 統合保育

友達と同じ時間を過ごすことで、自分の気持ち（嬉しいこと、嫌なことなど）を言葉だけではなく、仕草や表情によって伝えられるようになってきたこどももいる。今後は、こども達が気持ちを表出しやすいよう、職員が感じ取れるよう活動をしていく。

②外出

散歩（外気浴を含め）は積極的に行うことができた。天気や体調を考慮して、時間等は無理なく行えた。

多人数での外出や、社会体験としての外出は実施することができなかった。

(3) 身体機能向上

ふれあい体操やリフレクソロジーにおいては、普段なかなか動かすことのない関節や、足裏のマッサージを受けることで、良い刺激になっています。

スヌーズレンにおいては、五感を刺激しながらも、リラックスできる環境を作り、普段過敏に反応してしまっている感覚を休ませられるように促しました。

[2]その他

体調管理

医療ケアの必要なこどもが多く、体調を崩しやすいことも多いため、家庭と連絡を密に取りながら、体調管理には気を付けた。

欠席時には、様子伺いを行った。

8. 行事・バザー報告

あにまあと 平成30年度年間行事・バザー表

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会							
5	開所記念の会				ヤマハジャンボリー()	【あ・は・そ・松・潮】	○	○
6	大掃除(9)				磐田北高校文化祭()	(物品準備)	○	呼びかけ
7								
8	納涼会 宿泊体験							
9	地域交流会バザー値付け(7) 地域交流会前日準備(14) 地域交流会(15)	実行委員会	○ ○ ○					
10								
11	ふれあい作品展() 大掃除()	環境美化委員会	○ ○		光る子まつり() 浅羽夢広場() ぬくまるマーケット() ふくでふれあいまつり()	【あ・は・そ・松】 【あ・は・そ・松・潮】 【あ・は・松】	○ ○ ○	○ ○ ○
12	ヤマハ労連観劇() 大掃除()	環境美化委員会	○ ○					
1	新年会 個別面談							
2	個別面談							
3	年度納めの会() 年度末お楽しみ会 個別面談	各G						
《備考》								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別体験…個人の希望に沿って時期・場所等を設定。 ・ 土曜開所日…のんびりし隊(本人会) ・ 個別面談は…1～3月に実施。 								

9. 環境美化委員会

- (1) 必要に応じて委員会を開き、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをした。
毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- (2) 大掃除については、新築したばかりであったので日頃の清掃とフィルター清掃を日々の活動で行った。
- (3) ゴミの分別については、徹底されている。

10. 安全委員会

- (1)利用者の方の安全確保
 - ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
 - ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。
- (2)防災
 - ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
 - ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
 - ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。
- (3)施設設備（環境）の保全管理
 - ・ 設備自主点検を適宜実施。
不具合箇所 … 新築したばかりであるので業者に不具合箇所を修理していただく。
- (4)安全運転管理
 - ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
 - ・ 安全運転管理協会の事務局だよりの連絡。
- (5)緊急事態への対応
 - ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
 - ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

11. 生活・保健衛生委員会

- (1)健康診断及び記録について
健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時施設で行い、保菌検査は毎月全職員に実施した。
健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）
記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。
服薬は保護者に確認後マニュアルを作成して把握し、服薬ミスが無いように管理した。処方箋は昼食以外の物も提出して頂き、万が一の時に把握できるようにした。
- (2)体重測定について
毎月月初めに実施した。結果は、体重表（カード）に記入し、家庭に確認して頂いた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。
- (3)機関誌について
年に4回法人全体で保健だよりを発行した。インフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

感染症が流行する前に、予防接種を実施し、勤務中職員はマスクの着用を徹底した。(10月～4月) 毎日の生活については、ウィルバスを噴霧して除菌に努め、排泄介助等には、手袋の着用を努めた。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にはうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬(次亜塩素酸泡タイプ)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員会議にて伝え、研修時には対応マニュアルを用いて、実施研修を行い施設内での感染予防を徹底した

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、ほとんど貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、必要な利用者さんに対しては全面介助や仕上げ磨きを行った。うがいも上手に出来るように促したが、うがいが難しい利用者さんに対しては、お茶や水を飲むことで口腔内の清潔に努めた。

(10)歯科検診について

今年度初めて、訪問歯科による歯科検診を全利用者さん対象に実施した。

12. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。また、虐待防止チェックリストは、10月と3月(半期に一度)に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。

会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていく。

また、利用者さんの呼称(呼び方)を「さん付け」に徹底できるように、全職員に呼び掛けを行っている。今後も研修会、会議の中で職員の意識の向上を図るとともに、苦情解決担当者や安全委員会、研修担当者等と連携しながら具体的な活動を計画し、組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

13. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て内部研修を実施した。

平成30年度は、法人全体研修6回実施した。地域生活支援・放課後等デイサービスとの兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかったが、多くの職員が出席できた。

平成30年度そるとぼっと活動報告

1. 在籍者の状況

平成30年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	30年										31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		
	女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22		

【在籍者障害支援区分】 区分6→3名、区分5→12名、区分4→5名、区分3→1名(年度末時点)

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	30年										31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

2. その他の利用状況

項目	月	30年										31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	延日数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	
実研 習修 生	人員	0	2	2	2	0	0	6	8	4	2	2	0	28	
	延日数	0	6	8	2	0	0	6	10	6	8	2	0	48	
見 学 者	件数	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3	
	人員	0	0	0	1	3	0	0	0	3	0	0	0	7	
ポテ ライ ンア	延人数	2	0	0	0	0	5	0	0	6	0	0	0	13	
	特記						地域交流会 流しそうめん			クリスマス会					

3. 活動の状況

特別支援学校の卒業生1名が新たに入り22名+地域支援1名でスタート。一日当たりの年間の平均利用者数は19.8人で多くの利用を頂いた。新しい利用者さんは次第に環境に馴染みつつも、利用者さん同士の関係性に変化が現れ、グループ内の環境の見直しが必要となった。3つのグループで活動を進めたが、各グループ毎に活動内容や場所を工夫し、状況によってはグループ間を超えて協力体制をとった。

作業活動ではポスティングや空き缶つぶし等外での活動も取り入れ、利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。自主製品作りでは、ハンガーモップのデザインを変えコンスタントに作成したところ徐々に売れ行きも上がった。その他の活動として外出や散歩、体育館で身体を動かすこと、音楽鑑賞、料理作り、また宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ等を実施した。また猛暑が続いたため体調管理も考えながら例年より水遊びを多く実施した。施設行事では、ご家族にも呼びかけ利用者さんと一緒にウォーキングや流しそうめん等を実施した。

〔作業活動について〕

① シートカバーセット (大洋工業)

剥がす、丸める、畳む、チャックの空け閉め、袋に入れる等の工程があり、マンツーマンで取り組むことで障がいの重い利用者さんでも行うことが出来た。

② LDキャップ(ブリヂストン)

根気の要る作業だが、得意な利用者さんを中心に取り組むことが出来た。

③ 割箸袋入れ (藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程をそれぞれ分担して行い、安定した状況で進めることが出来た。

③ ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1～2回、歩きながらチラシをポストに入れる。配布エリアは比較的 안전한エリアなので交代で利用者さんが参加できた。

④ 空き缶つぶし

外に出て身体を動かす作業なので、場面の切替や気分転換にも行った。

⑤ キャンドル作り(自主製品)

材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程で関わることができるが、なかなか新たな作品作りにはつながらなかった。

⑥ ポストカード作り(自主製品)

利用者さんの手描きの作品をスキャンして新しいカードが出来上がった。

⑦ ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、カラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を沢山作成し、販売数も伸びた。

⑧ エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ストラップやブレスレットに加え、バレッタやヘアピンを作成した。

⑨ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

〔その他の活動について〕

① 施設行事

- ・宿泊体験 (6/15～16、6/29～30、7/20～21、7/27～28、9/24～25、8/30～9/1)

希望者21名がそるとぽつとに宿泊。少人数でないと実施が難しいため、6グループに分かれ、大衆浴場やファミリーレストランを利用して楽しく過ごした。

- ・ファミリーウォーキング (4/28)

ご家族と一緒にまぼう公園にて実施。天候も良く、利用者さん18名とご家族19名が参加。4グループに分かれそれぞれのコースを歩いた。

- ・流しそうめん (9/29)

家族・ボランティアさんと駐車場で流しそうめんを行った。副食にも変化を付け楽しむことが出来た。利用者さん16名と家族17名、東部地区民生委員さん5名が参加。

- ・ヤマハ労連チャリティー公演 (11/16)

劇団四季「王様の耳はロバの耳」にご招待いただく。今年度も本物のミュージカルを楽しむことができた。利用者さん14名と付添のご家族6名が参加。

- ・クリスマス会 (12/22)

クリスマス会後半、グループ毎に分かれてボランティアさんと一緒にケーキのデコレーションと紙コップツリーを作成した。利用者さん19名、東部地区民生委員さん6名が参加。

- ・新年・成人を祝う会 (1/11)

皆で新年の挨拶をした後、新成人の利用者さんのお祝いをする。後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん20名が参加。成人の該当者は居なかった。

② 個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

10/12	浜名湖パルパル(浜松市)	2名参加 (付添2名)
11/21	のんほいパーク(豊橋市)	3名参加 (付添2名)
12/12	あらたまの湯(浜松市)	2名参加 (付添2名)
12/18	名古屋スカイプロムナード(名古屋市)	3名参加 (付添3名)
2/7	日本平夢テラス(静岡市)	2名参加 (付添2名)
3/1	うなぎパイファクトリー(浜松市)	3名参加 (付添2名)
3/15	エスパルスドリームプラザ・クルーズ(静岡市)	2名参加 (付添2名)

② 料理作り

レクリエーションやグループ活動等の中で、ワラビもち、どら焼き、ケーキ、ポップコーン、かき氷等を作って食べた。

④ スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を確認し、水泳(7名)、ボーリング(5名)、カラオケ(6名)をそれぞれ小グループで楽しんだ。

⑤ その他の余暇活動

絵馬作り、季節合わせた壁面装飾と一緒に製作して施設内に掲示した。磐田市ふれあい作品展に個人と共同製作で参加。体力作りも兼ねて外出やウォーキングを実施したり、定期的に近くの体育館で身体を動かした。あにまあとで行われた「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

⑥ 避難訓練

毎月、地震または火災を想定して避難訓練を実施、11月には総合防災訓練を行った。今年度は玄関前から駐車場まで移動して避難した。消防署への通報訓練も取り入れて行った。

そるとぼっと 平成30年度年間行事・バザー表								
月	行 事 等	担 当	参加者		バ ザ ー 等	担 当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	開所記念式・歓迎会(2)							
	ファミリーウォーキング(28)		○					
5			○		ヤマハジャンボリー(20)		○	○
6	大掃除(2)	環境委員会	○					
	宿泊体験(15～29. 29～30)							
7	宿泊体験(20～21. 27～28)							
8	宿泊体験(24～25・31～9/1)							
	流しそうめん(29)							
9	地域交流会バザー値付け(7)	実行委員会	○					
	地域交流会前日準備(14)		○					
	地域交流会(15)		○		地域交流会不用品バザー(15)			
	流しそうめん(29)		○					
10								
11	ふれあい作品展(4～14)		○		光る子まつり(17)		○	○
	ヤマハ労連観劇(16)			呼びかけ				
	大掃除(9)	環境委員会	○		ふくてふれあいまつり(11)		○	○
12								
1	新年・成人を祝う会(11)							
	活動参観・懇談会(11)		○					
	個別面談		○					
2	個別面談		○					
	活動参観・懇談会(8)		○					
3								
ともしびコンサート(あにまあと)各月参加					喫茶ペンギン(1階)常時販売			

4. グループ活動報告

せさみグループ (男性7名、女性2名)

年度途中にグループ職員の入れ替わりがあったため、上半期頃まで落ち着かない雰囲気が続き利用者さんにご迷惑をかけたまま。それ以降は、少しずつ体制も整い始めた。

そんな中、利用者さん一人ひとりの思いに添えるよう意向を確認しながら活動したが、乗り物で外出する希望が多く、身体を動かすことが減ってしまった。より、深く利用者さんからの情報をつかむことと、活動内容の再検討が課題となった。

① 作業活動

今年度は、シートカバーセットの作業が中心となった。不安があった材料の入荷については、安定して入荷できた分、ペースが上がり出荷量も増加した。工程内容も一人一人状況に応じて変更が出来るようになり、増加へ繋がったと思われる。時々依頼のあるポスティングも実施、散歩もかねて行った。また、昨年依頼があったカレンダーの包装は、業者の都合により入荷がなかった。

利用者さんによっては、運搬するといった動きのある作業の方が向いている人もいるので、作業の一環として取り入れた。(例えば、月曜日、水曜日、木曜日とそれぞれ決められた日に出せるよう、ゴミの取りまとめとゴミ捨て場までの運搬、書類の配達と空き缶の積み込みと運搬、その他納品など)

② その他の活動

木曜日の午前に体育館で体を動かす活動は、異常気象もあり、見合わせ事が多くなってしまった。その代りとして、ホームセンターや商業施設へ出かけ買い物を兼ねた散策を実施した。また、作業活動中にも少人数での散歩に出掛けた。外出方法や内容として、ハイエースで移動し、地域の公園での昼食、希望により凧揚げなど、季節の物を取り入れ実施した。木曜日の午後は、次週の計画を立てるミーティングの時間とし、楽しみにつなげた。

一部の人でしたが、プール体験を、活動の中で取り入れ実施につなげられた。

③ グループ活動

10月にハロウィンパーティー、12月に民生委員さんの協力のもとクリスマス会を行った。年末にお楽しみ会、1月に初詣、2月に豆まき等も実施した。それぞれに余暇活動を楽しむ姿が見られた。また、季節に合わせておかしづくりを行った。

ばせりグループ (男性9名)

今年度は、新しい利用者さん1名を迎え9名で活動した。

環境の変化に伴う戸惑いや不安を上手く伝えることが苦手なために、様々な行動(自傷や他害行為・こだわりなど)となって現れてしまう人が多いため、訴えを受け止め聞く態度、応える姿勢で接するよう努めた。職員とおしゃべりしたり、からかって面白がっている場面があったり、誰にでも要求を伝えることが出来るなど、安心できる関係づくりができてきたように感じる。イラついて怒る場面が減り、穏やかに過ごすことができた。6月から水曜日の活動時間が1日になったことで半日→1日の日課を受け入れられず戸惑った利用者さんもあったが、次第に慣れていった。

日中活動は作業を中心とし、午前は作業、午後は曜日毎に日課を決め作業や外出、自由時間とした。拘りが強く変更が苦手な利用者さんが多いことから、混乱や不安を避けるように出来るだけ日課の変更は少なくしている。しかし、変化に戸惑い不安定になる場合があるものの少しずつ変化を取り入れていくことで固執や拘りが減り、日常生活が過ごしやすくなるような工夫や提案をしていきたい。

人との関わりを大切にしながら安心できる居心地のいい場でありたい。

① 作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンのLDキャップ分離作業、シートカバー作業、ポスティング、自主製品作りを行った。作業場所や作業工程の工夫などで安定してできるよう配慮した。

外部作業としてベッドメイキングにも1名の利用者さんが継続して参加している。見通しがもて達成感を感じて終了できるよう各人に合った作業量を設定したり、運動や気分転換も兼ねてポスティングに行ったりなど、目的をもった作業を心掛けた。

② その他の活動

週2回、午後に外出し散歩等で身体を動かす時間をつくった。今年度は夏季の暑さ対策でビニールプールに水を溜め、水遊びを楽しんでいる姿があった。

ともしびコンサートには、希望者が参加した。5月からは、あにまあとが会場になり新しい広い場所での開催となった。今後はより多くの人に参加する試みもしてみたい。

磐田市作品展には、各人が好きな色で塗った干支の作品を作って出品した。流しそうめんやクリスマス会など大勢が集まる全体行事では、それぞれの状況に配慮し参加できる工夫をした。苦手だった利用者さんが笑顔で参加している姿を見る事もできた。

③ グループ活動

6月8日(金)にお弁当を持って浜名湖ガーデンパークへ出かけ散策した。

みんとグループ（男性4名）

作業棟は少人数で静かな環境で活動できる場所として編成した。男性利用者4名だが、1名は休みがちのため常時3名での活動になっている。

ぱせりグループと同じ日課とし職員も協力しあいながらすすめてきた。

少人数なため細かな対応ができる半面、刺激が少なく物足りないと感じることもあるため、活動内容によっては他のグループの行事に参加したり、作業品の運搬などで他のグループへ出向いたりして人との関わりをもつよう心掛けた。

① 作業活動

主な作業として割り箸、シートカバー作業、自主製品作りを行った。

気持ちの安定を第一に考え作業活動はその手段であるため、作業量や作業時間はそれぞれの体調にあわせている。しかし、予告なしに作業内容を変更しても受け入れられるようになってきた。

② その他の活動

週2回午後外出し散歩等で体を動かす時間をつくった。

ともしびコンサートには、希望者が参加した。5月からは、あにまあとが会場となり新しく広い場所で気持ちよくのびのびと歌ったり、身体を動かしたりしている。

流しそうめんやクリスマス会など大勢が集まる場所が苦手な利用者さんも少しずつ参加できるようになった。

③ グループ活動

10月31日（水）には、せさみグループと一緒に仮装してハロウィンパーティーを行った。

12月19日（水）にファミリーレストランで忘年会をした。

5. 委員会活動

① 保健委員会

家庭やグループホームと連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調を見守った。体調を崩して欠席した場合には、電話で様子伺いをしたり、状況によっては自宅訪問をしたりした。

毎月一回、体重測定を実施し体重の変化を把握した。

健康診断の日程は利用者さんに配慮して、はまぼうと松ぼっくりに分けて出向き、採血やレントゲン検査を行った。

今年度も歯科検診を実施し、全員の利用者さんが参加した。

年4回保健便りを発行し、流行性疾患への注意の呼びかけや対処方法を伝えた。

今年度は、インフルエンザによる欠席者が多かった。

感染症対策として、利用者さん帰宅後毎日室内や送迎車内の消毒を行った。また、利用者さんに手洗いやうがいの声掛けや介助を行なった。

② 環境委員会

ご家族に協力いただき、6月と12月の2回大掃除とワックスがけを行った。また、6月にはバルサンを散布し害虫駆除を行った。

春から秋にかけて、活動の中で施設周辺の草取りを行ったり、定期的に職員が駐車場や裏の河川敷の草刈りを行った。

ごみの分別は、週に3日それぞれのごみの回収日に合わせ、また古紙やペットボトルについては活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分した。ゴミの分別については確認しながら意識を高めて行った。

ごみのない綺麗な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行った。水曜の午後には保健委員会とも協力して、感染予防のためモップがけと手すり・机・椅子等利用者さんが手に触れそうなどの消毒を行った。

④ 安全委員会

今年度は5件の事故報告があった。利用者さんの怪我については大事には至らなかったが、職員による見守りの切れ目におきてしまったため、通常の流れの中で過信が生じてしまったことを反省し、職員個々がお互いに声を掛け合うといった、基本的なところから意識を徹底していった。引き続き、注意喚起をして事故防止、安全運転に努めたい。

昨年に続き、定期的に避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施した。利用者さん達も慣れてきたこともあり、円滑に進められ、担架による移動と発電機の取り扱いなど避難以外の準備物とうの取り扱いまで全員に周知することができた。防災担当者会議を開催し、継続して防災対策に取り組んだ。

10月と3月には設備自主検査を実施。

[ヒヤリハット] 0件

[事故] 5件 内訳：利用者… 怪我(1)、物損(2)
職員… 車両接触(1)、物損(1)

6. 地域社会との関係

広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。

バザー等に参加することで、自主製品の販売を通じて地元の方と触れ合う機会を設けたり、外出先や近隣を散策して地域の方との挨拶を積極的に行なった。

磐田市東地区の民生委員・児童委員さんをはじめボランティアさんの受け入れや、磐田北高等学校の介護実習や城山中学校と福田中学校の福祉体験の生徒さんを受け入れ、利用者さんとの関わっていただくことで相互に理解を深めるよい機会になった。

法人内の各事業所、ご家族と協力して「地域交流会」に参加した。地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

磐田市民児協研修会で講演を行ない、障がいのある人たちへの理解を求めた。

7. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

地域交流会(9月)、流しそうめん(9月)、ファミリーウォーキング(4月)、大掃除(6月と11月)、活動参観・懇談会(1月2月)を家族参加で実施した。家族参加の行事等は好評で喜んでいただいた。

8. 苦情解決体制

苦情受付と「こんな一言聞きました報告書」の提出は無かったが、常に謙虚な気持ちでご家族や地域の声に耳を傾ける姿勢で取り組んだ。

9. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、事業所内虐待を未然に防ぐために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度も研修担当者と協力し、利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。5月に委員会の開催、前期(10月)と後期(3月)で全職員対象に「虐待防止チェックリスト」を実施し、支援の振り返りをするとともに、人権擁護と虐待防止についての意識向上を図った。集計にあたっては5施設の担当者が集まって行い、結果を各施設で周知することとした。

また、毎月の職員会議で、職員一人ひとりが自分の支援を振り返り発表する時間を設け、意識を高めた。今後も組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

10. 内部研修

職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことであり、法人内各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、職員合同研修会のあり方や自己評価等について積極的に検討を重ねた。職員合同研修は水曜日の午後に時間を設け、年5回実施した。

そるとぼっとでは、歯磨き指導研修が歯科衛生士の都合により中止になってしまったが、今まで教えていただいたことを参考に続けて取り組むことが出来た。また、災害時のテントの設営など有事に対しての対応を研修として実施したところ、不慣れな職員が多かったこと、ペグを打ち込むには地盤が固すぎるなどの課題を確認することができた。その他、職員会議の中で文献等の読み合せや出張報告を行った。

来年度もこれらの事も踏まえ継続した研修を取り入れていく。

日付	内部研修内容	担当者
4/10	研修担当者合同会議	研修担当
5/30	研修担当者合同会議	研修担当
6/27	新任職員合同研修 <第1回合同研修会> ① メンタルヘルスについて 笑み社会保険労務士法人 鈴木恵美氏 ② 理事長講話	各管理者 研修担当 外部講師 理事長
	7/3	研修担当者合同会議
9/25	研修担当者合同会議	研修担当
10/10	<第2回合同研修会> ① 感染予防について ② 支援者に求められること（さぼ一とより） ③ 理事長講話	研修担当 保健委員 理事長
11/13	研修担当者合同会議	研修担当
12/5	<第3回合同研修会> ① 安否確認名簿について「地区別顔合わせ」 ② 福祉避難所について ③ 理事長講話	研修担当 防災担当 理事長
12/21	研修担当者合同会議	研修担当
2/6	<第4回合同研修会> ① 安全運転について(DVD鑑賞) ② 理事長講話	研修担当 理事長
2/22	研修担当者合同会議	研修担当
3/23	研修担当者合同会議	研修担当
3/23	<第5回合同研修会> ① テーマ「利用者さんが意見を述べやすい環境を作るためにはどうすればよいか」(グループワーク) ② 理事長講話	研修担当 理事長

11. 地域生活支援

地域生活支援事業、ライフサポート事業、福祉有償運送を利用して、施設利用時間前後の送迎やサービス終了後の延長時間や休日に支援を行った。ショートステイや行動援護のサービス利用に合わせ利用する機会が確実に増えている。

12. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

相談事業所や市町の担当者と連携を図りながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、家庭環境の変化に伴い在宅生活を支えるために必要となった各支援についてや、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

13. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

取りまとめ会、進路部会及び中東遠圏域自立支援協議会運営会議に出席した。また地域支援部会の「自閉症等在宅支援検討会」担当として、松ぼっくり、緑ヶ丘学園と共に講演会を企画したが、事情により次年度へ持ち越しとなった。行動障害の強い自閉症の人が利用できる事業所が不足しているという地域の課題を繰り返し協議会に提出し、地域の事業所間で協力してこの状況を支えてきたが、行政からの改善に向けた反応が見られないことが残念。サービス事業所が少ない自閉症等在宅支援を始めグループホームやショートステイ等の部門は中遠地域としての共通の課題として検討を進めてきたが、磐田市の要望で次年度から2市それぞれに分かれて自立支援協議会を行うことになってしまった。事業所間のネットワークが出来上がっているため、引き続き事業所間の関係を大切に連携していきたい。

平成 30 年度松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

平成30年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	30年												31年	合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
月末 在籍	男	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	33		
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10		
	計	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	43		

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	30年												31年	合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

2. その他の利用状況

項目	月	30年												31年	合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	人員	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
	延日数	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6	
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	0	0	7	
	延日数	0	0	0	18	6	0	3	0	0	0	0	0	27	
見 学 者	件数	0	3	1	1	2	1	1	1	0	2	0	0	12	
	人員	0	4	2	2	4	3	1	1	0	4	0	0	21	
ボテ ライ ンア	延人数	7	9	4	15	3	4	12	8	6	1	8	3	80	
	特記														

3. 活動の状況

今年度も、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動を基本に、お互いの活動を尊重しながら、時には職員の配置を工夫したり、作業などの協力をしながら活動してきた。

又、利用者さんの中で、転倒により骨折したり、入院が長引いてしまう方もみえて、医療との連携も大きな課題になってきていることを実感した年であった。

又、今年度は松ぼっくり本体施設に1名、新たな利用者さんを迎えて活動を行った。仕事については、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクルの仕事を行った。その中で、長らく行ってきた「しいたけの収穫作業」が無くなったことは、地域の中で活動することを中心に据えて活動してきた自分たちにとっては、残念な出来事であった。

午前は作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

4. グループ活動報告

Wish

心地よい雰囲気を作り、利用者さん一人一人が自分らしさを表現しやすい環境を整えてきた。さまざまな活動を通して、いろいろな人と触れ合う機会を持ちながら、自分の思い、相手の思いを伝え合う機会を大切にしてきた。

①作業

本人が気持ち良く、仕事に取り組みやすいような環境を整えてきた。また、本人のペースやその日の様子に合わせ、作業内容や作業量を工夫してきた。

- アルミ缶/回収・缶つぶし・運搬（三光）
- ふすま梱包材組立て作業/週1～5回（（有）静岡フスマ商会）
- お茶の委託販売（恵松学園）
- リングはめ（コーケン工業）

②午後の活動

午後の活動は外に出て、健康作りと気分転換を図る内容を多く取り入れた。地域の公園や施設に出掛けて散歩したり、遊具などで遊んだりして身体を動かしたりもした。また、外出を通じ、地域の方や他施設の方との交流する場面や自然と触れ合う機会にも多く恵まれたように思う。

季節ごとの行事・宿泊体験などは、皆で行き先、行き方、食事などの希望を出し合いながら、計画を立てた。一人一人が楽しみを経験する中で、心に残る思い出を沢山作ることができたと思う。個別外出では、少人数のグループで外出する機会を取り入れ、新しい事にもチャレンジしながら、それぞれのペースに合わせて楽しめるような工夫を行った。

【グループ活動】

活動の種類	内 容
宿泊体験	やよい軒にて夕食、竜洋海洋公園オートキャンプ場、コテージ利用、しおさい竜洋入浴
クリスマス会	ジョイフル福田店にて
初詣	小国神社にて参拝、かつ平にて食事
年度納めの会	1年間の振り返り道の駅～風のマルシェ御前崎にて夕食と散策

【個別外出】

行き先	内容
清水港クルーズとエスパルスドリームプラザ	ベイクルーズとちびまるこちゃんランド見学
奥山高原	散策と外食
エスパルスドリームプラザ周辺	ちびまるこちゃんランド見学

スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

① 作業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

- ブリヂストン（LD塗装下キャップ清掃作業、LD下バック清掃作業）
- コーケン工業（リングはめ）
- 大洋工業（保護カバーの袋詰め）
- 缶回収（5箇所）
- 缶つぶし

② 午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。四季を感じながら身体を動かす良い機会となった。選択する経験、そして楽しみになるようにと外出先の自動販売機でジュースやアイス等を購入する機会を作り、利用者さんの楽しみに繋がった。週1回、「内職の日」を設定。1Fを利用するようになり、テレビ鑑賞ができるようにもなった。

③ その他の活動

○ グループ外出・活動

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。グループ活動としては、月2回おやつをもって公園へ出掛けた。（地域内の店でおやつ、大判焼き等を購入）利用者さんが楽しめるような活動を来年度も計画していきたい。（お菓子作りなど）

時期	内容		
6月	エアパーク (見学・体験)	1月	初詣(小国神社) & 弁当(ほっともっと)
12月	プチクリスマス会 (クリスマスケーキ作り)	3月	「たこまん」工場見学&外食(東風)

○ 個別外出

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せ、リラックスできる時間となったと思われる。

時 期	行 き 先	内 容
7 月	浜北森林アスレティック	体験と散策、外食
10 月	清水港クルーズとエスパルスドリームプラザ	ベイクルーズとちびまるこちゃんランド見学
2 月	森町～かわせみ湖散策	散策と外食

○ 宿泊体験 (10/5～10/6)

松ぼつくりの施設を利用して実施。宿泊体験にも慣れてきて比較的落ち着いて過ごす事ができるようになってきている。「かし亭」での食事を楽しみ、入浴施設(しおさい童洋)を利用し入浴も楽しめた。

ビジョン

①作 業

【内職、仕事について】

- ・堀住加工(袋入れ、ホチキス止め作業)
- ・コーケン工業(リングはめの仕事)
- ・静岡フスマ商会(梱包用のダンボール作り)
- ・さくらの苑、於保老健センター(ベッドメイキングの仕事)
- ・缶回収

※作業後の時間に軽体操やストレッチをしたり、ゆっくりと新聞を読んだりできるようなリラックスする時間を設けるように心掛けました。

②午後の活動について

午前引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。室内活動もカラオケで歌ったり、卓球やキャッチボールで身体を動かしたり、かるたやトランプなどのゲームを楽しみました。また、パソコンを利用して、個別外出の予定を立てたり、外出先のことを調べたりもしました。活動内容について皆と相談し、お互いに気持ちに折り合いをつけながら、楽しく活動に参加できるように工夫してきました。

③その他の活動について

利用者さんの思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。

- ・個別外出 ... 個々の希望に沿って年1回実施しました。
(映画鑑賞、温泉、サッカー観戦、カラオケ、ボーリング、ショッピング)
- ・グループ外出...季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。
(プール、初詣、買物、カラオケBOXなど)
- ・宿泊体験 ... 7/20～21、7/27～28の2回に分けて実施しました。

利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、ななつぼしやリフレUで入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見て楽しみました。学校を卒業して初めての体験となる方もいて、緊張しながらも楽しい思い出になったようでした。

- ・季節の行事...七夕飾り作り、クリスマスの昼食会、節分豆まき、ハロウィン、初詣
- ・おやつ作り...ホットケーキづくり

【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ外出	プール外出（御前崎市民プールすいすいパークぷるる）
グループ外出	コートダジュールなどで軽食、喫茶、カラオケ
グループ外出	浜松エアパーク見学
グループ外出	ジョイフルにてカラオケ、喫茶
宿泊体験	松ぼっくりを利用して宿泊、入浴（しおさい竜洋、ななつぼし、リフレU）、外食、花火、お酒を楽しむなど
初詣（お参りと外食）	小國神社、五社神社、デニーズ、掛川さわやか、スシロー～2回に分かれて実施。
年度納めの会	ミスタードーナツやお菓子を食べながら楽しむ。

【個別外出】

行 き 先	内 容
ららぽーと磐田	映画鑑賞（名探偵コナン）・食事・買い物
ヤマハスタジアム	サッカー観戦と買い物・食事
袋井グランドボウル、かつ平、コートダジュール	ボーリング、外食、カラオケ
浜松ドンキホーテと浜松餃子	浜松餃子の昼食と買い物
ピアゴでの買い物	買い物
浜松市野ショッピングセンター	外食と買い物

樹G

環境が変化する中でも、気持ちが安定し、落ち着いた場所を保てるよう心掛け、その中で、楽しく過ごす事が出来、「思い」を大切に認めあう関係になれるよう見守り支援してきた。

作業面では、朝の会等で取り組む作業を選び、目標を持てるよう工夫してきた。目標を持つことで、本人自身が責任を持つ事ができ、また充実しているように感じた。

活動面も、朝の会等で話し合い午後の活動などを決めた。朝に決める事で、午後の活動に取り組み易いようにしてきた。リラックスできる場になれるよう一緒に活動するメンバー、人数等も考え取り組みをした。散歩・卓球・ペットボトルボーリング・ダンスなどの簡単なスポーツも楽しく参加できるよう行った。身体的な事も考え、継続して仕事前に簡単なヨガ（体操）も取り入れ、生活のリズムとしてきた。また、全員・小人数で活動する事を交互に行う事で、他の利用者さんに合わせる力を持つことが出来、自分の気持ちを言い合える関係作りが出来ると感じさせてきた。

① 作 業

落ち着いて気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整え、作業への意識、意欲が継続的に持てるようにした。

- ・(株)コーケン工業（リングはめ作業）
- ・千栄加工（クリップ・カード入れ）

- ・ 堀住加工（袋入れ）
- ・ 公園清掃（ふるさと公園）
- ・ （有）静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・ 自主製品（曼荼羅アートのメモ帳・ノート、ポチ袋、縫製品等）

②その他の活動

<午後の活動>

意見を出し合い、午後の活動は選び決めていった。また、利用者さんとの話し合いで、樹ピック(オリンピックにちなんで)を継続的に行い、楽しく身体を動かし参加できるものにしてきた。また、行事等も意見を取り上げ、話し合いを持つ中で計画し、ハロウィーンも仮装したり、クリスマス会・豆まき・年度納の会等、利用者さんと一緒に準備をして楽しんだ。

(内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、おやつ作り、パソコン、音楽鑑賞、w i i スポーツ、サッカー、風船バレー、卓球、ペットボトルボーリング、リレー競争等)

<グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めていった。

*毎週月曜日はグループ全体での活動を心掛けた。(樹リンピック・散歩等)

<グループ活動>

活動の種類	内 容
クリスマス会（12月）	準備の段階から利用者さんが意見を出し合い、企画する。サンドウィッチやオードブル、ケーキを囲んで食事、その後それぞれが何かしら出し物等を披露して楽しむ。
初 詣 （2月）	・五社神社、鴨江寺、イタリアンレストラン「ラフェスタ」 (行きつけのレストランでのボランティアさんと食事会も含む)
年度納めの会（3月）	日頃の感謝の気持ちも添えてボランティアさんとお茶会を行う。皆が、お茶などサービスする方に周り喫茶店を運営したりしながら、一緒に楽しんだ。練習してきた手品や音楽隊の行進を披露したりした。

<個別外出>

個々の希望に応じて場所等決めていった。他のグループの利用者さんと一緒に行く機会も設けた。お小遣いもある中での活動なので、また違った楽しさを味わっている様子が伺えた。

行 き 先	内 容
ららぽーと、アトリエでバイキング、古着屋	買い物と散策、外食
竹島水族館、ラグーナフェスティバルマーケット	散策、ランチバイキング、買物
炭焼きレストランさわやかとコートダジュール	食事とカラオケ
清水エスパルスドリームプラザ	散策と外食、買物

<宿泊体験>

11月と2月に、2回に分けて松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。恒例で、楽しい行事でもあるのでそれぞれのペースで、無理なく過ごすことが出来ていた。食事や買い出し、お風呂、花火などの場面ごとに、それぞれの楽しみ方をして過ごしていた。

5. 音楽活動

【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。「ともしびコンサート」も恒例となっており、専門家による演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しくリフレッシュする時間となっており、参加者同士の交流もみられた。

6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・年2回に分け、ご家族の力を借りながら実施した。

第1回目・・・8月中に可能な時に職員で実施～あまりに暑い時期であったので、熱中症等の危険にも考慮し、家族の方へのお願いは取りやめる。グループ事に分かれ部屋の清掃、ワックス掛けを職員のみで実施。

第2回目・・・網戸, 窓内, 窓外, トイレ, 外壁, 作業棟の6箇所に分かれて一日のみ実施。

第3回目・・・3月13日（水）ワックス掛けを職員のみで実施。

◎日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週水曜日、金曜日の午後の活動で掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。（毎日使っている作業室や食堂・トイレ・車洗い等）

◎草刈り・草取り・・・9月8日（土）の地域交流会前にご家族や法人内の職員に協力を仰いで実施した。

◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。古紙・ダンボールについては、古紙回収ステーションへ搬入した。

◎施設周りの美化・・・施設の周囲燃えやすいゴミや怪我に繋がりそうなゴミがないか確認をし、処分をした。

◎粗大ゴミの処分・・・地域交流会と大掃除の時期に合わせてコンテナを借り、施設内やハウス等の整理を通して粗大ゴミの処分を行った。

◎暑さ対策・・・作業棟周りに日よけネット等を設置して暑さ対策を行ってきた。

◎防虫対策・・・8月9日（木）の放課後、施設内及び作業棟内において、一斉にバルサンを実施した。

7. 安全委員会

① 活動の報告と反省

・年度内の事故は5件、ヒヤリハット報告は4件。例年より交通事故が少ないが反面、利用者さんや職員が怪我をしてしまう事故があり、今後再発防止に努めたい。

・職員間の連携が問われるような場面が事故報告、ヒヤリハット報告それぞれに見られた。

② 来年度に向けて

・ケース検討していく中で利用者さんへの理解に努め、利用者さんが安心して過ごせるようにしながら、リスクを少しでも減らしていけるように職員間の連携を高められるようにコミュニケーションをとっていく機会を大切にしていきたい。

・朝のミーティングや職員会議を通して、交通事故の情報や時季ごとの運転に関する注意事項を職員に伝達、回覧をしていく中で、交通安全の意識を高める機会を設けた。

8. 生活・保健衛生委員会

① 健康診断の実施（春）（5/16）

レントゲン検査（4/27）採血、保菌検査、検尿、血圧、身体測定、嘱託医による問診

健康診断（秋）（11/7）採血（春に未受診の方）、保菌検査、検尿、嘱託医による問診

歯科検診実施。（10/18）

- ② 記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録（緊急用も含む）の記入 ⇒松ぼっくり～発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。
- ③ 個々人への衛生面への配慮
⇒入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なった。
- ④ 感染症への対応
- インフルエンザやノロウイルスが流行期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行ない、流行期は毎日実施した。（手軽にできるようにウイルバス 200 を使用）
 - インフルエンザ⇒**利** 5名がインフルエンザに感染、通所停止となった。
（**職** 5名・・・家族の感染と本人感染による出勤停止）
 - 嘔吐下痢症、急性胃腸炎の感染は見られなかった。※吐物処理セットを購入し、各グループに設置するようにした。
- ⑤保菌検査・・・利用者さんは、健康診断時（春・秋の2回）、職員は10月まで毎月実施したが、その後は年2回（春と秋）の実施に変更となった。
- ⑥『保健だより』の発行・・・時期や状況に合わせた情報提供をした。
- ⑦体重測定の実施・・・毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。
- ⑧職員研修・・・合同研修を実施し（年1回）、感染症の知識を再確認する機会を設けた。

9. 行事・バザー報告

月		行事等	担当	バザー等
4	21日	地域交流会会合		
	27日	レントゲン検診		
5	16日	血液検査		
	31日	はまべ会役員会・会計監査	20日	ヤマハジャンボリー
6	7日	はまべ会総会		
	25日～	袋井特別支援学校実習	28日	地域交流会はまべ会打合せ
7	2日～	浜松学院短大実習		
	20, 21日	ビジョンG 宿泊		
	24日～	浜松学院短大実習		
	27, 28日	ビジョンG 宿泊		
8	12日～16日	夏季休暇		
9	8日	はまべ会草刈り	7日	地域交流会バザー値付け
	14日	地域交流会前日準備		
	15日	地域交流会	15日	地域交流会バザー
10	5, 6日	スマイルG 宿泊		
	20日	お月見コンサート(円明寺)		
10	18日	城山中学校体験学習		
	23日～	袋井特別支援学校実習	31日	地域交流会はまべ会会合
	26, 27日	Wish宿泊体験		
11	7日	秋の健康診断	11日	ふくでふれあいまつり 浅羽夢ひろば
	16日	ヤマハ労連観劇	17日	光る子まつり

	22, 23日	樹 G 宿泊		
12	1日	ウォーキング	5日～	ふれあい作品展
	29日～ 1月6日	冬季休暇		
1	13日	11番組初燈		
2	13、14日	樹G宿泊 個別面談		
3	8日	大掃除		
	13日	総合防災訓練		
	26日	はまべ会総会 個別面談		
毎月1回 避難訓練実施				
随時 浜松学院短大(保育実習Ⅰ)、静岡こども福祉専門(相談援助実習)、磐田北高(介護実習)				
随時 袋井特別支援学校現場実習及び保護者福祉事業所体験				

10. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。昨年度に引き続き研修担当者と協力し、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知とともに学ぶ機会を持つとともに、日常的な自己点検をするために「虐待防止チェックリスト」を機会あるごとに実施するよう努めた。又、利用者さんの呼称の面も、朝のミーティングなどで呼びかけ、自分自身で確認するように提案した。

11. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。水曜日や土曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体の合同研修を5回にわたり実施した。

今年度も合同研修会を中心に実施し、事業所間における情報共有や意見交換を図る機会を設ける中、日頃の支援を見つめ直す機会を設けることができた。

引き続き、職員の資質向上に向け、研修内容や研修方法を改めて見直し、それぞれが意欲を持って研修会に参加できるような研修活動を展開していきたい。

<活動内容>

日付	内容	担当者
6/27	メンタルヘルスについて 理事長の話（合同研修会）	笑み社会保険労務士法人 研修担当者
10/10	感染症について 理事長の話（合同研修会）	生活保健委員会
12/5	緊急時安否確認名簿について 福祉避難所に関して 理事長の話（合同研修会）	防災担当者 磐田市職員
2/6	安全運転について マニュアルについて 理事長の話（合同研修会）	安全委員会
3/23	自己評価に基づいたグループワーク 理事長の話（合同研修会）	研修担当者

12. 苦情解決体制

平成30年度としては、苦情受付として0件、こんな一言聞きました報告1件という状況であった。内容については、職員の対応に関するもの1件であった。特に「松ぼっくり」としては、家族の方との連絡や伝達面での確認に関することが挙げられていた。今後の課題としたい。

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・在宅者への生活支援、学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に年5回ほど参加。地区内の各機関が一致した認識が持てるように、協力して進めている状況である。

又、高齢者のご家族を持つ家庭での利用者支援について、地域包括支援センターなどの相談機関との連携はもちろん、障害福祉関係施設だけでなく介護保険関係事業所とのつながりも、今後ますます必要性があると思われる。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置されている。代表者会、幹事会、個別支援会議を軸に構成されており、参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて参加した。

平成30年度 潮の香活動報告

1. 在籍者の状況

平成30年度の定員（20名）の月別在籍状況（契約者数）

区分	月	30年									31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
月末	男	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	
	女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
在籍	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	30年									31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末	男	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
在籍	計	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	

2. その他の利用状況

項目	月	30年									31年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	人員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延日数	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
実研 習修 ・生	人員	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	14
	延日数	0	3	4	1	1	4	3	2	2	4	0	0	24
見 学 者	件数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	人員	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ポテ ライ ンア	延人数	11	2	2	5	3	6	3	3	4	2	3	5	49
	特記													

3. 活動の状況

(1)仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハのオートバイ部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」、「有限会社マックスのダミー作業」の仕事を行ってきた。

また、地域の一員として事業所で働くことを考え、引き続き「コーケン工業（自動車部品）」と「静岡フスマ商会（段ボール組み立て等）」と「カネ長水産（しらす加工）」と「於保老健（ベッドメイキング）」へ出向を行ってきた。

《のき花製作》

今年度も祭典用のき花の、製作総本数約20,200本（寄付を含む）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。

※本年度も竜洋地区、浜松北地区や磐田北地区等から注文を頂いた。

《請負作業》

「ヤマハのオートバイ部品の袋詰め」を行ってきた。日によって量や部品の形・大きさが違っているが、そのことにも対応する能力を持ち、積極的に作業に取り組んできた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、今では取り組める方が増えている。また、ヤマハの仕事の合間を縫って行っている、電気部品のカプラへのダミー作業「有限会社マックス」は始めてから6年半が経った。小さなゴムを指で穴に入れ、道具で押し入れる細かな作業だが、作業に集中できるよい仕事であり、みんなが好きな仕事でもある。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をやる機会を作ってきた。

コーケン工業(株)には現在も男女4名が出向しており、新しい作業に挑戦したり作業量を増やしたりするなど、自分の持つ力を十分作業に発揮し、充実した毎日を過ごすことができている。年に2回はリフレッシュのため1日外出する機会を作り楽しんだ。

(有)フスマ商会とカネ長水産には男性1名ずつが出向している。すでに長く働いているため事業所との信頼関係もあり、安定して出向できている。

また、於保老健へベッドのシーツ交換作業に1名が出掛けている。前職でのシーツ交換の経験を活かし取り組むことができている。

(2)その他の活動

毎日が作業中心の生活であるため、みんなが楽しめる活動を目指し年間計画を立てて実施してきた。各種行事・外出には利用者さんの意見を取り入れながら企画し、充実した楽しい活動内容となった。

① スポーツ・ウォーキング・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・ウォーキングは欠かさず毎朝励行してきた。

今年度のスポーツはボウリング大会を行った。袋井グランドボウルへ出掛け、スコアを競い合い楽しんだ。

土曜レクでは、ミニ運動会・公園の散策などで体を動かした。

② 音楽・美術の鑑賞及び出展

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、様々な技法で描かれた絵画の世界に親しむことができた。また、ふれあい作品展に2名が出展し、趣味である

写真や漫画の力作を多くの方に鑑賞してもらい、大きな喜びを感じると同時に、次回への出展意欲が増すことにも繋がっている。

音楽関係では、地域交流会で間近に楽器演奏や歌を聴き、一緒に歌ったり踊ったりすることができた。また、今年度もヤマハ労連招待のチャリティー公演でミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しむことができた。

日常的な音楽活動は、利用者さんと季節ごとに選曲した歌を、朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。今年度は「しなやかに歌って」「白い色は恋人の色」「BELIEVE（ビリーブ）」などを歌った。声を出すことによって元気が出たり、合唱でみんなの気持ちがまとまったりする効果がある。また、「次はこれを歌うか!」と自ら考え提案する良い機会にもなっているため、これからも続けていきたい。

③ 野外活動（年間5回実施）

普段の利用者さんとのコミュニケーションから野外活動のヒントを得て、行き先等を決めてきた。そして、どの野外活動でも意欲的に取り組んできた。

主なものとして、お花見は、浜松フラワーパークへ弁当を持って出掛け、たくさんのお花の中で楽しく過ごすことができた。5月にはスポーツ体験として、ボウリング大会を開催しスコアを競った。10月のウォーキングは浜名湖ガーデンパークへ出掛け、広い園内をがんばって歩いた。ミニ旅行は昨年同様、11月と12月の2回に分かれて実施した。日本平に出来たばかりの「夢テラス」を見学し、清水港から船に乗ってお弁当を食べる「バイクルーズ」で楽しんだ。利用者さん・職員ともに楽しくリフレッシュができる旅となった。

④ 個別体験

今年度も、年1回の個々が希望する体験を行った。個人や少人数で出掛け、それぞれ一日を楽しく過ごすことができた。

・ 4/23 桜見物	1名参加（職員1名）
・ 5/24 ラグナシア	3名参加（職員2名）
・ 7/19 名古屋港水族館	4名参加（職員2名）
・ 9/3 カラオケ	2名参加（職員1名）
・ 11/20 遠鉄百貨店	1名参加（職員1名）
・ 11/26 買い物	1名参加（職員1名）
・ 11/28 久能山東照宮	4名参加（職員2名）
・ 12/10 浜松市楽器博物館	1名参加（職員1名）
・ 12/14 あらたまの湯	1名参加（職員1名）
・ 3/12 浜松市動物園	2名参加（職員2名）

⑤ BDショッピング（バースデーショッピング）

利用者さんの誕生月に、朝の会等でお祝いの言葉をかけたり、買い物に出掛け決められた金額（500円）の中で好きなものを購入したり、楽しく実施できた。（例：お菓子、日用品、CD、雑貨など）

⑥ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。少しでも地域のために役に立つこと、また、きれいな心を育むためにと、「ひろ道ウォーク」を月に1回のペースで続けてきた。（冬期12月～3月は休止した）

安全や熱中症等に十分配慮しながら、地域貢献活動の一つとして、地域との繋がりを大切にするためにも続けていきたい。

⑦ 創作活動

季節に合わせた壁面装飾用の作品を、利用者さんに色付けなどしてもらい飾った。春には、それぞれ個性のある鯉のぼりが出来て、潮の香を楽しい雰囲気に変えてくれた。

⑧ イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン（マックスバリュ福田店投函分）

活動ではないが、今年も皆様の温かなご協力により、今回は28,700円の助成をいただいた。助成金はイオンギフトカードとして寄贈された後、お菓子や日用品などに替え、皆さんへお渡しすることができた。ご協力くださった皆様には心から感謝いたします。

⑨ その他の活動

今年度も納涼祭を開き、本所でかき氷・ポップコーン・お好み焼きなどを食べた。屋内外では、射的・輪投げなどのゲームや、初めて水風船を投げて遊ぶこともした。とても楽しい納涼祭となった。また、今年度もかもめへの寄付をいただいた。そのはがきで、日頃お世話になっているボランティアさんや保護者の方、外部作業先の事業所さんなどに暑中見舞いを書く機会を作った。普段は字を書く機会がほとんどないため、このような活動で自身が持っている能力を低下させないよう配慮した。

(3)食事等について

- ・ 歯が弱い方、呑み込みが難しい方には、食べやすい大きさに刻む支援を行った。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醤油をかける量を調節したりする支援を行った。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さん全員の当番制で行ってきた。進んで取り組める利用者さんが多くなった。

(4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。また、施設内の消毒も行ってきたが、1月にインフルエンザが蔓延し、土曜日を閉所する事態にまでなってしまった。改めて一気に広がってしまう感染症の怖さを感じるようになった。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。ストレッチは利用者さんが先生になってもらい、意識を高めてもらった。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病を抱える方には必要に応じて対応を考えてきたが、心の奥に抱えている思いを解決する方法が見つからず、どのような支援がいいのか悩む日が続いている。
- ・ 通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。交通事故などの事例はなかった。
- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を本所と作業棟で毎月交互に実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。

11月21日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。職員による通報訓練、全員で消火器の取扱いと消火方法を実践し、また、ウルトラマンの出演するDVDを見て、防災について楽しく学ぶこともできた。

4. 委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について委員会を設け、特に松ぼっくりと協力しながら協議や活動を行ってきた。

① 生活・保健衛生委員会

- ・健康診断の実施（5月16日、11月7日）

レントゲン、採血、嘱託医による問診、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿と血圧（潮の香で実施）、体重については毎月実施し連絡帳の身体測定表に記入することで、一年間の体重変化を家庭にお知らせしてきた。

- ・個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行と、家庭との連携を図ったがまだ十分ではなかったため、引き続き働きかけていく。特に、入浴が不十分な方は着替えも不十分なため、着替えと洗濯の支援を行ってきた。しかし、ご家庭の事情も考えると改善に至るまでには難しい状況であることも多い。

手洗い・うがいは外出後必ず行うよう声掛けした。本人専用のコップを用意したことで、うがいをすることも定着してきた。歯磨きは食後に行い、磨きが不十分な方には職員が手を貸してきた。出来たら自分で歯みがき表に印を付けるようにし、意識を高めている。

ハンカチの所持を忘れる方やトイレでの靴の履き替え、汗拭きが出来ていない方については常に声掛けをしてきたが、習慣化するところまではいかなかった。

- ・全員が歯科検診を行い、結果はご家庭へ知らせた。
- ・保健だよりを発行し熱中症や感染症の予防を早めに呼びかけた。

② 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月21日、12月7日に大掃除を実施し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等を行い、環境美化に努めた。また、気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた。

③ 安全委員会

- ・会議や朝のミーティングなどで事故防止に関する話し合いを適時行った。
- ・毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・今年度はヒヤリハット・事故ともに0件となった。備品の点検を随時行い、昨年のような事故の再発防止に努めた。

④ 人権擁護・虐待防止委員会

今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて虐待防止チェックリストを使用し、利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。虐待防止チェックリストは、10月と3月(半期に一度)に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。その後の法人全体の集計結果は全職員で周知し、改めて自身の支援と照らし合わせるようにした。

5. 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	野外活動Ⅰ（花見）(9) 家族懇談会(26)		○					
5	野外活動Ⅱ（ボウリング大会）(21) お話の会(10)			○	ヤマハジャンボリー (20)			○
6	大掃除(21)	環境美化委員会	○	○				
7	お話の会(5)			○				
8	納涼祭(17)							
9	お話の会(7) 地域交流会(15) 軒花収めの会(25)		○	○ ○ ○	地域交流会バザー(15)			○
10	野外活動Ⅲ（ウォーキング）(19) 活動参観及び懇談会(24) 歯科検診(18)		○					
11	お話の会(8) ヤマハ労連観劇(16) 総合防災訓練(21) 野外活動Ⅳ（ミニ旅行）(30)			○	ふくでふれあいまつり(11) 光る子まつり(17)			○ ○
12	野外活動Ⅳ（ミニ旅行）(3) 大掃除(7) クリスマス会(19)	環境美化委員会	○					
1	初詣・新年会(7) お話の会(10)			○				
2	豆まき(1) 個別面談	担当・サビ管	○					
3	個別面談 お話の会・ボランティアさんに感謝する会(7)	担当・サビ管	○	○				
他	4～11月 ひろ道ウォーク実施 BDショッピング（誕生月実施）							

6. 職員研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。水曜日や土曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修を5回実施した。

第1回合同研修会では社労士の方をお招きし、職員のメンタルヘルスについて講義を受けた。ストレスからくる反応や病的な状態、6段階で進むストレス状態を理解することができた。

第4回合同研修会では、「事故0」を目指し、安全運転を考えるためにDVDを鑑賞した。どのようにして事故は起こるのか、そして事故の怖さを学んだ。

今年度も潮の香独自の研修は設けることができなかった。今後は職員間の情報共有や意識向上を図るため、出張報告やその他検討会等の機会を作っていく。

<活動内容>

日付	内部研修内容	担当者
6/27	新任職員合同研修	各管理者
	<第1回合同研修会> ① メンタルヘルスについて 笑み社会保険労務士法人 鈴木恵美氏 ② 理事長講話	研修担当 外部講師 理事長
10/10	<第2回合同研修会> ① 感染予防について ② 支援者に求められること（さぽーとより） ③ 理事長講話	研修担当 保健委員 理事長
12/5	<第3回合同研修会> ① 安否確認名簿について（地区別顔合わせ） ② 福祉避難所について（磐田市福祉課職員） ③ 理事長講話	研修担当 防災担当 外部講師 理事長
2/6	<第4回合同研修会> ① 安全運転について（DVD鑑賞） ② 理事長講話	研修担当 理事長
3/23	<第5回合同研修会> ① 利用者さんが意見を述べやすい環境を作るためにはどうすればよいか（グループワーク） ② 理事長講話	研修担当 理事長

7. 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業、福祉有償運送を利用する、施設利用者さんの時間外や休日の支援を行った。日中一時支援事業を毎日利用して通っている方がおり、楽しく利用できるようご家庭と相談を重ねてきた。

8. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について相談があった。個別ケース会議を開いて緊急時の対応なども行ってきた。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

9. 日常生活自立支援事業・成年後見制度

利用者さん1名が社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を、3名が成年後見制度を利用して、生活支援員及び後見人等と協力し、計画的・快適に暮らせるような配慮をしてきた。家庭環境が変わり、日常生活自立支援事業から成年後見制度の利用へと移行した方がいた。

10. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

各専門部会、検討会の開催については、各事業所で担当職員を決めて出席した。会長には福浜会理事長、及び部会・検討会には福浜会から引き続き「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」「グループホーム検討会」に担当者を決め、それぞれが複数回会議を開催し、地域の課題に取り組んだ。

平成30年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

(1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
精神障害者の方で、医療との連携を外せない場合、専門性の高い事業所を紹介する事がある。
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

(3) 対象地域・・・磐田市、袋井市、掛川市、浜松市、森町

(4) 内容

①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省が示した対象者ごとの標準期間を原則として、各市町で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

2. 平成30年度を振り返って

- ① 掛川市などの児童を除き、ほぼ100%のサービス利用者に計画相談が実施され、現在はモニタリングを通して、利用者の状況を把握し、課題解決の度合いや新たな課題を探り、今後の方針を確認することが主な事業内容となっている。

モニタリング期間について、平成30年度より標準期間を短縮する見直しがあり、磐田市においてもサービス利用の種類によって、1年→6ヶ月、6ヶ月→3ヶ月に変更されている。

- ② 計画相談の目的からも、市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または地域包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することは、重要な事柄となっている。中でも65歳以上となる利用者には介護保険優先の原則のもと、介護認定が求められ、利用者さんの高齢化と共に、老障介護の問題も深刻となる中で、高齢者を取り巻く相談窓口としての、地域包括支援センターとの連携は増々欠かせない状況となっている。平成30年度も、障害の相談支援専門員とケアマネとの交流会が年3回、磐田市南部の3つの地域包括支援センターと協働して開催され、多くの反響を得ている。

また結の特徴として、重心の方の計画も多く、医療との連携は増々重要となっているが、相談支援専門員が介護保険のケアマネのように周知されておらず、情報が集約されて来るような立場に、名実共に成長する事が今後の課題となっている。

- ③ 児童の場合は「あにまあと」の放課後等デイサービスを利用している方の計画が中心で、平成30年度新規の4名を含めて、大半が重症心身障害児の計画相談となっている。
- ④ 中遠自立支援協議会の中に相談支援専門員連絡会があり、平成30年度は磐田市と袋井市の相談支援事業所が参加し、年間4回の連絡会を開催している。昨年度に引き続き各事業所の抱える課題の検討や、行政との計画に関するすり合わせ作業などが行われた。
- ⑤ 今年度、法人で磐田市障害者相談支援センターの委託を受けた事により、月1回の合同会議を設け、お互いの相談支援状況を報告する中から視野を広げる事ができ、また計画相談の実情を知ってもらい、内容によっては地域の課題として把握してもらうなど、日頃の業務を見直す良い機会となっている。

その他

- * 福田地域連携会議(福田地域包括支援センター主催) 年6回開催・出席
- * 福田地区チーム検討会 年5回開催・出席
- * 磐田市ケアマネ連絡会

平成30年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	3	3	2	14	11	12	5	7	2	9	6	15	89
(児童)	1	0	2	2	1	4	1	0	0	4	1	3	19
合計	4	3	4	16	12	16	6	7	2	13	7	18	108
モニタリング	15	16	35	28	29	46	18	23	27	40	33	41	350
(児童)	0	0	0	2	1	1	2	1	3	2	1	2	16
合計	15	16	35	30	30	47	20	24	30	42	34	43	366

平成30年度地域療育支援センター 事業報告

1. 平成 30 年度の状況

登録者数	前年度末現在	11 人		
	新規登録	8 人		
	登録抹消	11 人		
			<u>H30 年度末現在登録者数</u>	8 人

在宅支援訪問療育等指導事業	実人員	10 人	延べ回数	31 回
在宅支援外来療育等指導事業	実人員	4 人	延べ回数	6 回
施設支援一般指導事業				0 回

2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・日常生活(医療的ケアを含む)に関する相談支援
- ・家族支援・緊急訪問支援
- ・医療的ケア児の在宅療育訪問支援・PT 同行リハビリ
- ・就学に関する事、学校卒業後の進路先に関する相談支援・情報提供
- ・就学前(乳幼児)や就学後(児童)の日常生活相談
- ・日常生活及び就労に向けての相談

平成 30 年度は前年度の活動に加え、重症心身障害児(者)ばかりでなく知的障害や肢体不自由の方を対象とした動きも多く訪問回数も増えている。重症心身障害の方の療育訪問は定期的に行っており、本人・御家族共に喜んで頂いている。また、医療的ケアのある重症心身障害の方への PT (理学療法士) 同行のもとリハビリ支援も行うようになった。支援者(親)の高齢化に伴い本人を含む「家族支援」が必要となるケースも出てきている。重症心身障害児を対象とした「あにまあと」での児童発達支援事業や放課後等デイサービス等の関係から、見学を希望されるケースやサービス内容について相談を求められるケースも依然多くなっている。

平成30年度 地域生活支援事業活動報告

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、各市町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度委託契約して実施したサービス内容は次のとおり。

1. 提供サービス内容（各市町との委託契約を受けて）

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市＝外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市、森町）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市）

2. サービス提供時間

原則として6:00～22:00で対応し、支援を実施した。早朝や夜間時間帯の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、そのほとんどが8:00～19:00の時間内に集中していた。

3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼も、増加傾向にあり、施設見学や面談をその都度実施して、要望をお聞きした。契約するにあたっては受け入れ体制の整備をしてから対応している。そのために新規登録ヘルパーの採用や、法人内施設の職員体制について適宜相談して対応した。

移動支援に関しては、その目的に沿って、余暇活動の充実のための支援を行なった。健康維持のための散歩の依頼や、公共交通機関を利用しての外出の依頼があった。

施設利用者さんの早朝時間帯の利用や、日中活動終了後の延長利用、または施設閉所日における日中一時支援や移動支援の利用希望があり、それぞれの施設における職員の受け入れ体制を整えながら、できる範囲で対応している。

特別支援学校の長期休暇時には、受け入れ依頼が毎年のように増加傾向にある。

磐田市や近隣市町、相談支援事業所を通して、送迎を伴うサービス提供が可能かといった相談やいろいろなケースの相談があり、その都度各市町とサービス内容について確認をし、必要に応じて契約しサービス提供をしたが、短期の利用にとどまることも多かった。地域での受け入れを基本にしながらも必要に応じて受け入れる方向で検討していく姿勢でいる。

4. その他

土、日、祝祭日などの施設閉所日の支援に関しては、登録ヘルパーのみで支援を受けていることがあるため、利用者さんが楽しく過ごすことができるように、個々の判断に委ねるのではなく、登録ヘルパー同士がお互いに相談しながら支援にあたるようにしている。

大きな事故や利用者さんに怪我などはなかった。支援の内容などについて、問い合わせがあった際にはその都度ご家族へ説明をしてきた。支援内容について個別具体的な要望があげられた際には、必要に応じてヘルパーに周知、徹底した。

支援する環境整備の一環で必要と思われる備品の購入をしたり、受け入れる部屋においては感染予防のため消毒処置をしたり、乾燥する時期には加湿器を配置する等の対応をした。

別表

H30 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H29
ライフサポート	129	141	135	168	88	140	122	131	112	125	121	106	1518	1507
日中一時	282	291	285	350	276	225	280	255	250	226	242	262	3224	2817
移動支援	4	4	4	5	5	2	5	5	4	0	1	1	40	55
合計	415	436	424	523	369	367	407	391	366	351	364	369	4782	4379

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H29
ライフサポート	16	31	30	17	16	12	10	12	7	8	10	8	177	165
日中一時	54	65	68	78	58	38	49	50	41	36	36	37	610	629
外出介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	70	96	98	95	74	50	59	62	48	44	46	45	787	794

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H29
日中一時	0	0	1	3	1	1	1	0	2	2	1	1	13	8
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	3	1	1	1	0	2	2	1	1	13	8

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H29
日中一時	4	8	5	3	6	4	6	0	1	5	4	4	50	112
合計	4	8	5	3	6	4	6	0	0	5	4	4	50	112

平成30年度 共同生活援助事業「汐風」活動報告

1. 入居者さん及び各グループホームの状況

【汐 風】

入居者さんの身体的状況を考慮し、体調観察や通院の支援、服薬の適切な管理など項目として整理し、その必要性に応じて実施している。そのうえで、業務日誌に記入しながら併行して体調観察を日々行なうようにし、血圧や体温計のバイタルチェックや摂食量も把握していった。

家庭状況の変化に伴い、週末自宅に帰省せずに汐風で生活する入居者さんが増えたことで、週末の日中も世話人を配置することとなった。

掛川の事任八幡宮と道の駅への外出、飲食店への外食や地域の夜店市への外出、ホームでのクリスマス会、節分の豆まきなどの行事を、入居者さんと世話人とで共同で計画し実施した。

入居者さん同士お互いが気持ちよく過ごせる環境を模索するなかで、それぞれの気持ちに配慮した対応をその都度心掛けた。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんの地域生活支援事業を利用しての通院や買い物、散髪、身体機能維持のためのリハビリへのお付き添いなどの依頼が定着して定期的実施している。在宅医療クリニックに月1回の訪問を依頼し、体調管理、健康維持に関し継続して把握した。

その時期に合わせ、入居者さんと世話人とでクリスマス会や誕生日会など共同で計画し実施した。あしたばに隣接する御殿遺跡公園で行なわれる御殿夏祭りへ今年度も参加し、地元の方たちとふれあいの機会を持てた。毎年参加するのを楽しみにして定着してきている。

世話人だけで勤務シフトを組める状況にいったんはなったが、年度途中から配置が難しくなり、その時々に応じて法人職員が勤務に入る状況がしばらく続いている。引き続き継続して求人募集して人材の確保を目指している。

【日 和】

入居者さん同士が良好な関係でいられるように世話人が言葉がけ、促し等して配慮をしているが、関係性の中で難しい場面も多く、時として対応に難しい場面がある現状が続いている。

食事会など、その時期に合わせて入居者さんと世話人とで共同で計画し実施した。

101号室の入居者さんに身体の状況に大きな変化が見られ、日和での生活の継続が難しくなり平成31年2月で退去することとなった。

平成31年1月に入ってから102号室の入居者さんの様子に大きな変化がみられ、それまで

とは全く異なる行動の表れとなり、母親と相談しながら本人の様子をみている。日中通う潮の香の職員のサポートを受けながら日和での生活を継続している状況である。

一般就労している方については、車検など車の使用を維持、継続していく費用も重なって、依然として毎月のGHの利用料の支払いの滞りが続いており、今後の検討課題である。

障害者GHサテライト型（本体住居：日和）でH30.3.23から受け入れた方については、コーケン工業㈱に就職し、職場環境にも慣れて真面目に勤務を続けていて、安定した収入を得ながらサッカーの練習へ行ったり友達と外出するなどプライベートも充実している様子である。主たる援助者である祖父母と相談のうえ車も購入した。20歳になった時の障害者基礎年金の受給手続きに向けて3ヶ月に1回“こひつじ診療所”の武井Drを訪ねている。

【みぎわ】

365日開所のホーム。身寄りがない方もいるため、時期に合わせて楽しめる行事を行ってきた。ファミリーレストランへ外食したり、年末に大掃除を兼ねた昼食会を開いた。

休日に育成会や地域行事の一環で外出を楽しみにしている方には、その外出に必要な手配（参加の用紙への記入、タクシーの手配やバス時刻表の確認と持ち物の確認など）をした。地域へ出かけ、充実した余暇を過ごした。

前年度“日和”から転居してきた入居者さんは、生活環境にもすっかり慣れ、週末も含めて“みぎわ”を利用することが定着した。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは基本的には1日通して世話人一人体制で勤務し、あしたばは全身性障がいの方がいるため、時間帯によっては2人体制で勤務した。

夜勤体制を継続して実施した。夜勤の勤務内容としては、就寝への促し、夜間の見回り、入居者さんの安全確認、夜間における緊急時の対応である。日和の夜勤は週2～3回夜勤者を配置していたが平成31年2月からはほとんど全日配置とした。それ以外のグループホームの夜間体制は、毎日1名の夜勤者を配置した。また、世話人だけで全てのホームの夜勤体制を敷くには大変さがあり、法人職員に夜勤をフォローしてもらった。法人の職員が夜勤に入った場合、グループホーム従事者（非常勤職員）としての位置付けをした。

また、週末自宅に帰省せず、ホームに入居者さんが留まって過ごす事があり、状況に応じて、世話人の勤務体制を整えるなどの対応をした。

世話人の事情等により、年間を通して勤務体制がめまぐるしく変わり、その都度勤務シフトを組み直さざるを得ない状況があった。生活援助の継続のための世話人確保の問題が依然として浮き彫りとなっている。内部包括型の運営をしていくために、世話人の絶対数の確保は重要課題である。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。高血圧が気になる方には、定期的な通院の支援と毎日の血圧チェックをした。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養

バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。服薬については、ホーム毎にその方法を決めて取り組んだ。体調不良など、普段と違う様子が見られた際には、日中活動の施設の職員とその都度相談し、ご家族と相談して、その後の対応をした。

就寝前後、起床前後のエアコンのスイッチON⇔OFFや温度調節などを行った。

また、時間を見つけ、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を図る機会とした。消毒処置を定期的にも実施した。

4. 活動起案書による余暇活動

入居者さんより外出や交流会や外出などの希望が出た際は、世話人と相談しそれぞれのグループホーム単位で計画を立てて実施し、余暇活動の充実を図った。

5. 購入物品について

ホームの生活に必要と思われるものについては、世話人さんより意見を伺い、その必要性について精査し、妥当と思われる物を購入した。入居者さんの個人の居室に欲しいものなどについては個別の費用負担としてご本人やご家族と相談して購入した。

日常生活品については、宅配をしてくれる業者へ定期的に発注をかけ、依頼している。

6. その他

ホーム毎に世話人と定期的に話し合いを行い、勤務シフトの確認と入居者さんの直近の様子申し送りや、業務の流れの確認などをした。通常と異なる状況や様子が見られている入居者さんについて、その前後の状況や出来事の情報共有のため、ノート等による申し送りや、必要に応じて勤務前に連絡を入れて報告をするなどして対応した。また、職員がバックアップに入った際には、世話人との情報交換なども行った。

世話人に対しては、会議の折に法人の理念や目的に沿って基本的な関わり方、業務の流れの理解を大事にしながら、それぞれの世話人が同じ方向を向いて支援にあたってもらよう折に触れながら、定期的に法人で行なわれる職員向けの内部研修への出席を世話人へ要請し、研修を重ねてきた。外部研修への参加としては、中遠地域自立支援協議会のGH検討会への参加や静岡県知的障害者福祉協会の地域支援部会における研修会への出張などがあげられ、一部の世話人を同行して行なった。

防災対策については、非常食について配備しており、飲食料を世話人分含めて3日分を用意している。また、MCA無線機やトランシーバーも配備しており、普段からの予防意識に加え、いざというときに有効活用ができるように世話人へ意識付けをはたらきかけている。

平成30年度磐田市障害者相談支援センター 及び磐田市障害者虐待防止センター事業報告

磐田市障害者相談支援センター

磐田市障害者相談支援センターは、磐田市より障害者相談支援事業の業務委託を受けて活動しています。
(このなかに障害者虐待防止センターの機能も含まれています)

センター所在地	磐田市国府台57-7 磐田市総合健康福祉会館（iプラザ）
受託法人	社会福祉法人 福浜会
支援の実施地域	磐田市全域
対象者	知的、精神、身体の障がいをお持ちの方 (障害者手帳がなくても障がいがあるのではないかとと思われる方も含みます)
開所時間	月曜日～金曜日 8:30～17:15 (24時間電話対応)
職員数	4人 (社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員) 知的障害、身体障害の担当と、精神障害の担当に分かれています。

支援内容

- | | |
|-------------------|------------------|
| ①福祉サービスの利用等に関する支援 | ⑦家計・経済に関する支援 |
| ②障害や症状の理解に関する支援 | ⑧生活技術に関する支援 |
| ③健康・医療に関する支援 | ⑨就労に関する支援 |
| ④不安の解消・情緒安定に関する支援 | ⑩社会参加・余暇活動に関する支援 |
| ⑤保育・教育に関する支援 | ⑪権利擁護に関する支援 |
| ⑥家族関係・人間関係に関する支援 | ⑫その他 |

ライフステージにおける支援の具体例

	支援内容
乳幼児期0～6	【障害の受容、適切な療育を受けるための支援、就学に向けての支援】 ・重症心身障害児の退院後の生活のコーディネート ・母親が働くために就労時間に合わせたサービス調整 ・母子家庭、父子家庭の養育等に関する不安の相談 ・本人以外にも支援の必要な方がいて家族全体に支援が必要な方 etc.
学齢期6～18	【放課後、長期休暇のサービス利用、卒業後の進路、家族のレスパイトのこと】 ・虐待防止の観点から児童相談所と家族支援 ・親に障害がある方への支援 ・集団活動が苦手なコミュニケーション手段が少ない方への地域で支える支援

成人期 18～59 :	【障害者年金の申請、成年後見人制度の利用、住宅入居の支援】 ・知的障害のある夫婦の子育てについて保健師と連携して対応 ・触法経験のある方の構成のための支援 ・民事事件に巻き込まれた方へ弁護士と協力して対応 ・精神科受診に繋げる支援 etc.
	・65歳以降の介護保険と障害福祉サービスの併用について

こんな機関と関わっています

市・県の機関（児童相談所等）、教育機関（特別支援学校等）、サービス事業所（施設等）、病院、警察、弁護士、幼稚園、保育園、ハローワーク、地域包括支援センター

磐田市障害者虐待防止センター

障害者虐待防止法は、障害者の安定した生活や社会参加を助けるために、障害者の権利や尊厳が脅かされることを防ぐ法律となります。

障害者虐待防止センターでは、通報や届け出の受付、虐待を受けた方の保護のための相談・指導及び助言、虐待防止のための啓発活動をおこなっています。

○ 障害者虐待の種類
①養護者による虐待
②障害者福祉施設従事者等による虐待
③使用者による虐待

○ 障害者虐待とは
・身体的虐待
・性的虐待
・心理的虐待
・放棄・放任（ネグレクト）
・経済的虐待

平成30年度 磐田市障害者相談支援業務 完了実績報告書

平成 31年 4月 10日

法人名 社会福祉法人福浜会
所在地 静岡県磐田市福田4396-1
代表者 理事長 高橋 和己

平成30年度分の磐田市障害者相談支援業務の実施状況を次のとおり報告します。

【障害者相談支援業務】

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身 障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳 機能障害 (7)	その他 (8)
障 害 者 (01)	337	76	7	105	193	29	6	9
障 害 児 (02)	49	8	0	34	3	23	0	0
計 (03)	386	84	7	139	196	52	6	9

(支援方法)

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談 (4)	電子メール (5)	個別支援 会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
身 体 障 害	150	32	18	128	1	15	252	0	596
知 的 障 害	429	272	282	976	50	118	1,112	4	3,243
精 神 障 害	777	338	191	906	38	56	362	1	2,669
件 数 (07)	1,356	642	491	2,010	89	189	1,726	5	6,508

(支援内容)

	福祉サービスの 利用等に関 する支援 (1)	障害や症状の 理解に関する 支援 (2)	健康・医療に 関する支援 (3)	不安の解消・ 情緒安定に 関する支援 (4)	保育・教育に 関する支援 (5)	家族関係・人 間関係に関す る支援 (6)	家計・経済に 関する支援 (7)	生活技術に 関する支援 (8)	就労に関する 支援 (9)
件 数 (08)	2,174	263	649	1,679	158	892	286	780	305
(再掲) ピアカウ ンセラー (09)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	社会参加・余 暇活動に関す る支援 (10)	権利擁護に 関する支援 (11)	その他 (12)	計 (13)
件 数 (08)	32	146	28	7,392
(再掲) ピアカウ ンセラー (09)	0	0	0	0

【相談支援機能強化業務】

	件数
総合的・専門的な相談支援 (01)	232
相談支援体制の強化 (02)	233
地域移行・地域定着の取組み (03)	2
権利擁護・虐待防止 (04)	25
中遠自立支援協議会の運営 (05)	185

平成30年度 磐田市障害者虐待防止業務 完了実績報告書

平成 31年 4月 10日

法人名 社会福祉法人福浜会
所在地 静岡県磐田市福田4396-1
代表者 理事長 高橋 和己

平成30年度分の磐田市障害者虐待防止業務の実施状況を次のとおり報告します。

(障害者虐待の相談又は通報を受けた件数※被虐待者障害種類別・虐待種類別)

	養護者による虐待 (1)	施設従事者等による虐待 (2)	使用者による虐待 (3)	その他 (4)	計 (5)
身体障害 (01)	0	0	0	0	0
知的障害 (02)	1	1	0	0	2
精神障害 (03)	0	0	0	0	0
手帳未所持 (04)	0	0	0	0	0
実人員 (05)	1	1	0	0	2

(障害者虐待の相談又は通報を受けた件数※受付方法別・虐待種類別)

	養護者による虐待 (1)	施設従事者等による虐待 (2)	使用者による虐待 (3)	その他 (4)	計 (5)
窓口 (01)	1	0	0	0	1
電話 (02)	0	0	0	0	0
メール・FAX (03)	0	0	0	0	0
件数 (04)	1	0	0	0	1

※休日・夜間に受けた場合は()書きで再掲

(養護者および障害者の支援方法)

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談 (4)	電子メール (5)	個別支援会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
件数 (01)	53	73	59	254	0	25	231	1	696

(養護者および障害者の支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援 (1)	障害や症状の理解に関する支援 (2)	健康・医療に関する支援 (3)	不安の解消・情緒安定に関する支援 (4)	家族関係・人間関係に関する支援 (5)	家計・経済に関する支援 (6)	権利擁護に関する支援 (7)	その他 (8)	計 (10)
件数 (01)	226	14	33	212	114	4	0	1	604

(家庭訪問等個別支援業務)

	訪問世帯数 (1)	延べ訪問数 (2)
件数 (01)	26	55

(障害者虐待防止啓発活動業務)

件数 (01)	1
---------	---